

---

# 仮面ライダーDCDRW スピンオフ大戦！

ハルル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーDCDRW      スピンオフ大戦！

### 【Nコード】

N1264Y

### 【作者名】

ハルル

### 【あらすじ】

【仮面ライダーデイクイド Re：imagination War】が、爆笑スピンオフになって登場！

皆の絵心は何処まであるか？

仮面ライダー達の、本編への主張とは？

フライングでも気にしない、ネタバレでも気にしない、自己主張の激しい昭和リイマジ達！

本編のシリアス空気を払拭するようなギャグ展開を、見逃すな！！

## Ride001：体験！大学ライフ

夏海「大学ライフを満喫したいです」

士「…は？」

夏海「大学ライフを満喫してみたいんです！」

海東「なんだいナツメロン、まさか、大学に憧れているのかい？」

夏海「はい！……オープンキャンパスに、部活体験、講義に充実した夏休みライフ…楽しみじゃないですか！！」

カズマ「どうするショウイチさん」↑短期大学卒業

ショウイチ「俺に聞くな！」↑4年大学卒業

シンジ「俺も大学には興味あるなあ…」↑専門学校卒業

ソウジ「うむ」↑高卒

ショウイチ「………ん？お前、高卒後にZECT入ったのか…？？」

カズマ「あそこ、頭いいイメージがあるんだけど」

ソウジ「入隊試験は実技と軽いテストだった」

シンジ「………これの何処が？」↑超難問テスト取り出しながら

夏海「でも…でもっ、空気の読めないゴリラがやってきたせいで…

折角のキャンパスライフが！台無しに！！」

ユウスケ「あー、それはある！」

士「せめて部活ぐらいはしたかったぜ」

映司「大学生活かあ…俺も（政治家の家系だからという理由で）入れられたよ。短期制だったけど」

エイジス「大学…とは違うかもしれないが、偏差値の高い学問所になら（自費で）」

エイジ「大学行かなかった（面倒だし）」

タジャドル「……トリプルエイジに大学の入試問題出したら、王環が最初に脱落しそうな気がするの、気のせいかな？」

シャウタ「気のせいでOK」

トリプルエイジの中で頭がいいのは銃火器、残りの二人はそれより少し下ぐらい

夏海「私は要求します！…大学の楽しいキャンパスライフを！！」

シンジ「おー！」

タクミ「いや、あなたLostでやりましたよね！オープンキャンパス満喫しましたよね！！」

エイジス「ポケモン大学紹介してやるうか？竜の怒りを覚えたコイキングがいるらしいぞ」

ユウスケ「懐かしいな、そのネタ！」

士「…ああなつたナツミカンは煩いからな。おいタジャドル、何とかならないか？」

タジャドル「無理。学長のオルタナティブ先生、厳しいし…」

プトティラ「役に立たないね！」

タジャドル「おいコラ！」

プトティラ「きゅーい！」↑テイルディバイダー

タジャドル「おせあにあっ！？」

ソウジ「待て士。大学生と言えば、彼らがいるだろう」  
士「彼ら？」

〃  
〃  
〃

月島カズヤ「――で、俺達の大学で好き勝手やらせてやってくれってことなんですわ……」

仁ケイスケ「しかも、俺（の親父）のコネで……ってか」

ソウジ「ああ」

シヨウイチ「頼んだぞ、教授の息子！」

ケイスケ「……はああああ……まあいいや、で？参加するのは夏海とユウスケと……」

士「主役だから、当然だな！」

シンジ「はい！」

ソウジ「はい」

カズマ「うえい」

シヨウイチ（あれ、これ俺強制？）

タクミ「はい」

シャウタ「……」 ↑こっさり手を挙げる

ヒナ「お兄ちゃんのほうをお願いします」

エイジ「ええええええ！？」

エイジス「…」↑黙って挙手

映司（駄目だ、ダブルエイジ来たら俺もやんないといけない空気が…）

ケイスケ「で、フライング上等の昭和軍はいるか？」

紫電シゲル「おう！」

風祭シロウ「…」↑黙って挙手

時雨リヨウ「はい」

天空ヒロシ「俺も…その大学、凄く通いたかったんだ！」

本郷ハヤト「おつれもー！」

ケイスケ「おいあんた植物学者！自然系大学卒！！」

ハヤト「いいじゃん別に！」

ヒロシ「ほっしのつみや！ほっしのつみや！！」

カズヤ「…なんか、凄く楽しそうにしてる…！orz」

この中で一名、ネタバレ防止策のために苗字を旧姓にしている人がいますが、スルーの方向で

彼らはスピノフではリンクもビックリ・フライング登場なので、『こういうキャラが出るんだ』程度の認識でお願いします

シャウタ「……深海科行きたい」

プトティラ「シャウタが行くなら行く！」

ラトラーター「行きたいです」

ガタキリバ「出番ないし行きたいです」

サゴーズ「ここぞとばかりに行きたいです」

タトバ「俺も」

タジャドル（…俺達が行ったら浮くと思うんだが…）

くくく

鳴滝を扱き使って大学までショートカットしました

カズヤ「オーロラって便利…」

ケイスケ「通学にな」

士「それよりも、まずは部活だな」

夏海「そうですね！」

カズヤ「いや、講義を受けに行こうよ！大学生活の基本はやっぱり勉強だよ！？」

士「そんなもん、後回しだ！」

夏海「部活動楽しみですよー！」

参加者達「わーい！」「」

ケイスケ「おい、これじゃあ部活動体験コーナーじゃないか！講義受けるよ、講義ー！」

カズヤ「あれ？ヒロシとシャウタは…」

シロウ「ヒロシは宇宙科の講義のある講堂に突っ走って行って、シャウタは仁深海研究所である講義を受けに行った」

ケイスケ「フリーダムだな！おい！！」

カズヤ「ハヤトさんは？」

シロウ「生け花同好会」

ケイスケ「リヨウさん……」

シロウ「軽音楽部」

カズヤ「シゲル！」

シロウ「アメフト部」

ケイスケ「……あんたは何処に行く予定だ？」

シロウ「乗馬クラブ」

カズヤ「——お願いだから、講義を受けにいった人達を見習ってください昭和リイマジ勢！orz」

ケイスケ「講義を受けに行ったのも、ヒロシとシャウタだけだな！」

プトティラ「ぶきゅん……omO」

カズヤ「……ああ、なんかシャウタに置いていかれた子がいる」

ケイスケ「どうした……プトティラ」

プトティラ「シャウタが迷子になった……」

カズヤ「……シャウタは今、難しいお勉強に行ったから、誰かに遊んでもらいなさい」

ケイスケ「今なら、シンジさんに置いていかれてうえいうえい鳴いているカズマと遊んでもらえるぞ……」

土「お。ここは、映画研究部か」

夏海「何をしているんでしょう？」

ケイスケ「……やっと追いついた！」

ユウスケ「ここでは、演劇部の人達と協力して……学園祭で映画を作っているんだってさ」↑パンフ見ながら

映司「……うわっ、何これ楽しい！」↑ワイヤーアクション中

士「お前何やってるんだ映司!？」

エイジ「スタント体験つてのをやっているらしくて、今、火野とレ  
ヴアが遊んでる」↑機材壊せないの自粛

エイジス「〜」↑ワイヤーアクション中

シヨウイチ「なんつー物を置いてるんだ、ここは!？」

カズヤ「さっき言ったじゃないですか。本格的な映画を作るために、  
ワイヤーアクション用の道具を購入したり…スタント紛いのことも  
学生がしているんです」

ガタキリバ「凄ッ!？」

カズヤ「ケイスケなんて、トラックに引かれるシーンのアクション  
スタントやら…3階建ての建物から落ちるスタントもさせられてる  
んですよ」

士「…お前、映画研究部の一員なのか？」

ケイスケ「いや…一年の時、時代劇の殺陣をやるからエキストラで  
手伝って欲しいって言われて…それ以来、何故か事あることに付き  
合わされる羽目に…」

カズヤ「去年なんて、学園祭で発表する映画の主演やらされたんで  
すよ。…ただし、壮絶な殺人ゲームの末に主役が犯人であること  
が明らかになつて、そこで10階建ての建物から落ちるアクション  
もやって…」

ラトラーター「あんたスタント系の役者になれるよ、マジで」

タジャドル「お。ここはフェンシング部もあるのか」

サゴーズ「フェンシング?」

タトバ「簡単に言つと、西洋の剣道かな」

ケイスケ「…」↑素通り

士「ん?この紹介はしないのか?」

ケイスケ「いや、ちょっと…」

部員達「「仁キャプテン、おはようございます!」「」  
士「」

タジャドル「は?」

ユウスケ「え?」

夏海「へ?」

ラトラーター「What?」

ガタキリバ「Really?」

カズヤ「あー、ケイスケは…フェンシング部のキャプテン……なんだ」

士「……性格的に似合わねえええ!?!」

エイジ「何がどうなつてフェンシン…ぶふっ」

映司「え、さっきのほうが天職じゃない?」

シヨウイチ「お前本当に技術科か!? ヒツキーか、機械オタクか!?!」

ケイスケ「……だから来なくなつたんだよ!そして、技術科への偏見やめい!!」

カズヤ「詳しく説明すると、ケイスケは中学から高校まで剣道をやつていたんですけど、この大学には剣道部がなくて…それでフェンシング部に」

ケイスケ「ちなみに、水曜日と金曜日はフェンシング休みだから…」

水曜は映画研究部・金曜は陸上部に顔出してる」

士「お前本当に技術科かよ!?!」

ヒロシ「ああ、楽しかった…今の時間の講義、G体験の機械に乗る奴だったんだよ!凄く受けたかったから、もうテンションスカイハイ!!!」

カズヤ「良かったな…」

ケイスケ「orz」

ヒロシ「ケイスケはどうしたの？」

カズヤ「…フエンシング部だって知られてちよつと落ち込んでる」

エイジス「気にする必要はないぞ。フエンシングは、貴族の嗜みとも言われている神聖なスポーツだ」

ケイスケ「それフォローじゃないよな、エイジス…」

エイジス「？」↑フォローのつもりだった

ラトラーター「お、何この部活」

ガタキリバ「えーつと…【サバイバル部】？」

カズヤ「ああ、そこは」

——パァン！

全「…！？」

エイジ「レヴァ、お前誰を撃った！？」

エイジス「お前を撃つぞ王環！」

映司「ちよつと待って、部屋の中から聞こえたんだけど！？」

ユウスケ「すいません！一体何が…」

——ヒュン↑ナイフがユウスケの頬を掠る音

ユウスケ「………」↑顔面蒼白

士「…」↑自分の近くの壁に刺さって凝固

カズヤ「これがサバイバル部」

ケイスケ「大自然で生き抜くための方法を模索する部だ。そして、その一環として射撃訓練もしている」

シンジ「…一体どんなサークルだそれはああ！？」↑写真部から

やって来た

サバイバル部キャプテン「入部希望者か？」

ユウスケ「…いえ、見学です…！」

サバ部キャプテン「そうか。だったら、射撃訓練でもしてみるか？」

↑本物の銃渡しながら

ユウスケ「ええええええええ！？ちょ、シンジさんパス」

シンジ「俺になんで渡す！…土パス」

土「ナツミカンやれ」

夏海「いやですよ！王環さんやってください…！」

エイジ「やだ壊す！…火野、どうぞ…！」

映司「え…エイジス！エイジスウウウウ…！」

エイジス「やらーん！こんな場所に来てまで、銃火器シャウタ言われてたまるかアアア…！」

タジャドル「……」

ーパン！

ーパン、パン…！

タジャドル「…よし、全部と真ん中」↑銃口に息吹きかけながら

全「…タジャドルスゲエ！？」

シャウタ「あれでも、射的で百発百中でしたから…」

ガタキリバ「しかも、一撃ででかい獲物狙ってさ…」

ラトラーター「ブラコンパワーがあつたかもしれないとはいえ、マジ凄かったわ。10回やって10の景品貰えるなんて」

エイジス「…銃火器タジャドル？」↑超いい笑顔

タジャドル「ちょ、それやめてくれマジやめてくれ」

サゴーズ「せめてスナイパータジャドルとか、ゴルゴタジャドルにしようよ…」

ラトラーター「<sup>タジャドル</sup>厨二風に言うなら、  
【<sup>レッドアイズ・スナイパー</sup>真紅の目の暗殺者】だよな」  
タジャドル「orz」  
シャウタ「厨二キャラなのが悪い」

ケイスケ「一旦外に出て…こっちは、乗馬クラブ」

シゲル「おー、やっと合流できた」

ヒロシ「アメフト部どうだった？」

シゲル「楽しそうだったぜ！この大学入ってみるのもいいかもなあ、  
朱空町の大学はアメフト部ないし…」

ケイスケ「入学試験、相当難しいぞ」

カズヤ「後、家がお金持ちとか、親がそっち関係の仕事をしている  
人とかじゃないと、入れない…かな」

シゲル「現実を言うな馬鹿野郎！orz」

シンジ「乗馬クラブってあんまり見ないけど、どんな部活なの？」

カズヤ「読んで字の如く、乗馬を楽しむの」

士「乗馬クラブな…キザな奴がやりそうなイメージだぜ」

シゲユウ「お前が言うな」

シロウ「…はっ！」↑柵越え

見ていた女性達「…キヤーツ！」「」

女性陣「…かつこいい！」「」

女学生A「イケメンで馬にも乗れる！嫌いじゃないわー！」

シゲル「しまった、あのキザ野郎忘れてた！」

ケイスケ「しかし、様にはなっているな…」

カズヤ「そうだな…」

士「……やるぞ」

ユウスケ「対抗意識燃やすなよ！」

シンジ「つか、馬に乗ったことなんてあるのか!？」

士「リンクに乗れるなら、俺にも乗れる！」

シンジ「その基準はリンク君に凄まじく失礼！」

映司「馬かー! エイジスや王環さんはどうします?」

エイジス「暇だしやるか」

エイジ「…馬潰れないよな!？」

映司「王環さん、自分は何kgあるつもりで言ってます?」

エイジス「ギルにならないければ100は越えないだろ」

リョウ「…楽しそうだな」↑軽音部で凄まじいほどのベースの演奏してきた

ヒロシ「やってみます?」

士「…はっ!」

ユウスケ「おーい、逆送しないでー!」↑馬が逆走

シンジ「…なぜ動かない?」↑シンジのオーラがプレッシャーで馬が動かない

エイジ「…orz」↑馬が牧草食べて動かない

リョウ「ハイヤ」↑柵2つ越え

映司「うわ、揺れる!？」↑馬は動かせるけどバランス取れない

エイジス「…せいやつ!」↑自分の高さの半分ほどの柵越え

女学生達「…きゃー!」

士「…おいちよつと待て、何でエイジスで盛り上がるんだそこ!」

映司「…俺も同じ顔だよ…!？orz」

シャウタ「—気品の差」

タジャドル「エイジスって、仮面ライダーにさえならなければ普通にイケメンだしな…」

ケイスケ「…!」↑口押さえて笑い堪えてる

ハヤト「~~~~ツ！」 ↑ 柵ベシベシ叩きながら爆笑  
シゲル「ぶつぶふ……！」 ↑ 腹抱えて爆笑

ソウジ「いやあ、楽しいな」  
↑満喫

カズマ「うえい！○○○」

プティラ「ぶー!><」

「シヨウイチ、遂に来たか、能天気一家……！」

タクミ「本当に、色々ある大学なんですなぁ……さっき、ハングライダー同好会なんてもの見かけましたよ」

土「大体分かった、スカイライダーネタだな」

カズヤ（それ言っちゃったら、アメフトもストロンガーネタになっちゃうんですが…）

夏海「ところで、カズヤさんって何かサークルに入っているんですか？」

カズヤ「え？いや、俺は何も入ってないよ」

ヒロシ「ええええええ！？」

夏海「それ、大学生生活損してますよ!？」

ユウスケ「そうだよ！」

カズヤ「そんなこと言われても、宇宙科のレポートって難しいから時間かかるし…それに自分の時間（＝鍛錬）もできるだけ取りたいから…！」

夏海「凄くもったいないじゃないですかあああ！」

ユウスケ「そうだそうだ！」

「シヨウイチ……大学行かなかった奴らが言っても、説得力ないぞ……」

夏ユウ「orz」  
↑高卒

ケイスケ「まあ、過ごし方なんて人それぞれだろ。エイジスも、大学に近いレベルの学問所行ってるって聞いたけど、何してた？」

エイジス「そうだな…俺の場合は、費用は自分で稼いだ金で行っていたからな。そこが終わったら、バイトに行って…帰ったら貿易学や貴族としての礼儀作法などを学んだり、学問所での課題をやったり、予習復習その他諸々」

エイジ「お前メツチャ優等生なんだな…レヴァ…」

映司「何か色々とごめん」

シャウタ「シャウタとしてもごめん」

エイジス「何がだ!？」

ケイスケ「俺だって、親父が『技術一本にのめり込むのではなく、部活動やサークルに入って視野を広げていけ』って言うから、剣道とかやっていたんだけど」

ヒロシ「色々あるんだねえ…」

シゲル「まあ、要するに、大学にしてもなんにしても…過ごし方は人それぞれってやつか！」

シロウ「——だが、いくら大学生活には長い休みがあるからって遊びに没頭しすぎると、レポート未提出で留年・ヘタすれば除籍と…墮落した生活になるかな？」

夏海「ゴフツ」

ユウスケ「ぐふっ!」

士「がっ」

カズマ「ΣO□O」

シゲル「お前もトドメ刺すんじゃないやねえよ!」

ケイスケ「……文字数も限界寸前だし、帰るか」  
カズヤ「さんせい」  
シゲル「おい！回収、回収してくれ！！」

## Ride001：体験！大学ライフ（後書き）

（次回予告）

アスム「【キターツ！絵心大戦2012】！始まりますよ！！」  
ワタル「今回の司会は、僕・ワタルと…」  
アスム「アスムでお送りいたします！！」

アスム「はい、全体的に出番の多い（特にレーヴァティン当主）オースチームの今日の出番は、ここまでです」  
全「「「なんかヒデエ！！」」」

カズマ「何このスズメバチ違い」  
ソウジ「何このビッチ臭」  
ワタル「ソウジさんから今、凄い暴言が」  
アスム「放っておきましょう」

Ride002：キターツ！絵心大戦2012その1

## Ride002：キターツ！絵心大戦2012その1

アスム「キターツ！絵心大戦2012」！始まりますよ！！」

ワタル「今回の司会は、僕・ワタルと…」

アスム「アスムでお送りいたします！」

カズマ「出番少ないしね」

アスワタ「orz」

シンジ「カズマアア！」

ショウイチ「止めを刺すなアア！」

カズマ「♪」↑口笛

士「まあ、簡単に言うと今までの絵心大戦ってことか」

アスム「——ただし！第4回まではリイマジ昭和メンバーに描いていただきますがね！！」

ワタル「そして、今回審判を出すのは…尾上タクミさんです！」

タクミ「……どうせ僕なんて…リンクがいないと出番すらないんだ…」↑ネガの空気

ユウスケ「Σ何か激しくショック受けていらっしやるー！？」

シンジ「仕方ないよ…現段階（36話執筆段階）で、タクミ君のセリフは…」

タクミ「言わないで…ください…orz」↑更にネガの空気深める  
カズマ「それはシンジが言っちゃいけないかったよ」  
シヨウイチ「そうだぞ…せめて、その権利があるのはワタルだ」  
ワタル「どの道一緒じゃないですか…orz」↑ネガ突入  
アスム「ワタルウウウ！」

ちなみに、各人の初登場セリフ（ネタバレあり）

ユウスケ↓「そうみたいだな」  
ワタル↓「ぐっ！」  
シンジ↓「それにしても…念のために有給休暇届け出しておいで良かった…のか、それとも逆に心配されるから出さない方が良かった…のか」  
カズマ↓「…嫌だね」  
タクミ↓「…」  
シヨウイチ↓「…知らんな」  
電王↓「…」  
ソウジ↓「よ」  
アスム↓「はあーッ！」

全「…ソウジさんあんたある意味酷い」  
ソウジ「ん？」  
カズマ「お母さん悪魔」  
シヨウイチ「俺よりお喋りって何だよお前」  
シンジ「ワケが分からないよ！」

士「…タクミは、もう、無理そうだな…色々と」

ワタル「皆でしましょうそうしましょう」

アスム「……さて、…それでは、僕達の出番を削る原因を作った、今回の参加者はこちら！」

ユウスケ「アスム君それメタい！」

月島カズヤ「…負けない…今回のお題だけは、絶対に負けない…」

紫電シゲル「な、何とか頑張って見るぜ」

天空ヒロシ「マイペンライ♪」

時雨リョウ「全力を尽くそう」

1号（notオリジナル、オーズ兄弟）「…何故私だけ変身状態？orz」

風祭シロウ「36話執筆段階で、存在自体していないからだろう」

花崎ユリコ「それ言ったら、アマゾンも絵心大戦用の絵を描いている段階じゃ、登場の『と』の字もなかったのよ…？」

士「今回からは、8人ずつの対決らしいな」

ワタル「はい！主に、作者が面倒くさがって（ry」

シンジ「何、今日メタ祭？」

ユウスケ「あれ、でも、そうなるとあと一人は…？」

如月弦太郎「——出番、キターッ！！！」

士「何か出たーッ！？」

映司「説明しなければならない…彼は、【仮面ライダーフォーゼ】に登場する、仮面ライダーフォーゼ！」

エイジ「そして、天ノ川高校2年生でもあり…学園の平和を守る仮

面ライダーの一員でもある！」

エイジス「これまで、『おいでよライダータウン！』でしか出番がない上に、そこではキャラが完全に迷走している為、本格的に原典のまま(?)の弦太朗はここが初登場となる」

ヒナ「更に！今回出てきた理由は、『Wバースですら、NOVEL大戦にまともに出ないでもスピンオフに出たのに、何で俺出れないんだよorz』ということである！！」

アスム「はい、全体的に出番の多い(特にレーヴァティン当主)オーズチームの今日の出番は、ここまでです」

全「『なんかヒデエ！』」

エイジス「俺も出てみたいな…」

ワタル「フォーゼでトリプルエイジ対決したらいいじゃないですか  
きつと、全体的に酷くなりますから…2位までには確実に入れますよ」

弦太朗「何それ俺ショック！orz」

アスム「ルールは簡単。お題に沿って、カオスな絵を描くだけです！」

カズマ「違うよお題に沿った絵を描けばいいんだよ」

シゲル「どっちだよ!?!」

ヒロシ「何でケイスケ、ツツコミ休暇取ったんだろうね?」

シロウ「疲れたからだろ」

寝たかった(b y . 仁ケイスケ)

アスム「今回のお題は…『仮面ライダースーパー1』!」

ワタル「5つの腕で世界を救った、仮面ライダーですよ!」

ソウジ「…」↑5つの腕を持ったライダーを想像

シヨウイチ「やめるよ、おい。不気味すぎる」↑読めた士（ああ、だから、カズヤが無駄に燃えているのか…）ユウスケ（星ノ宮天海大学2年としての、意地があるもんな…）

フィリップ「フォーゼも出てきたし、僕も出よう！」

カズマ「来たよフィリペディア」

シンジ「ところで、そのカツラ違和感バリバリなんだけど大丈夫？」  
フィリップ「…ちょっと坊主に興味を持ってね。まあ、そんなことはどうでもいいじゃないか…」

アスム「——仮面ライダースーパー1というのは、赤心少林拳とフアイブハンドを武器に戦う、宇宙ライダー…つまりフォーゼの先輩ですね」

フィリップ「僕のセリフウウ！」

ワタル「変身者は、沖一也と呼ばれる人で、現在月刊誌で連載中の【仮面ライダーSPIRITS】では、バダンシンドローームに掛かって変身出来なくなるという自体に陥っているライダーでもあります」

カズヤ「やめて！沖さんのことを悪く言わないで！！」

アスム「それと、沖一也さんは12月発売のクレヨンしんちゃんの3DSゲーム【アチヨー！友情のおバカラテ】で声を当てているとのこと」

ワタル「ちなみに今回のしんちゃんのゲームは宣伝の時点で、若干良作臭が漂っています（ゲームビジュアル的に）」

ヒロシ「凄まじくメタだね」

弦太朗「…あの、スーパー1の見た目の情報をください…」  
アスム「何言ってるんですか。そんなの、言ったら皆分かるに決まっていますよ」

ワタル「気合いで頑張ってくださいよ、あんた動画見てるんでしょ」  
弦太郎「げええ…よく覚えてねえよ……」

翔太郎「ちなみに、スーパー1はスズメバチのライダーでもあるんだぜ」

フィリップ「翔太郎のクセに僕のセリフをオオオ!?」

翔太郎「その言い分何だコラアアア!」

ショウイチ「もうこれ以上増えるとややこしいからW組出て行けよオオオ!」

アスム「なお、【どたばた! オーズ兄弟】でのスーパー1先生は…  
…ワタル並みのドSです」

ワタル「アスム。後でピンヒール頭踏みつけの刑」

カズマ「アスムクンマチガツテナイヨードSアッテルヨ」

ワタル「カズマはギロチン処刑です」

ショウイチ「いや、それ、死ぬ…いや、死なない!? 死ぬ、あれ!  
!?!」

ソウジ「カズマはきつと、世界の終わりが来ても元気な子」  
シンジ「それ、もう地球外生命体ですよ」

}}}

ワタル「さて、それでは発表タイム！」

アスム「ちなみに、今回ビリだった人には…ワタルのゲテモノ料理を食べてもらいます」↑スカイライダー（強化）色のカレーを出しながら

ワタル「アスム、後で王の判決による絶滅タイムです」

カズマ「それでは、花崎ユリコさん。花崎ユリコさん、お手元のスーパー１モドキをお見せください」

ユリコ「もどき扱い！？」

カズマ「お見せください」

ユリコ「うう、ちょっと自信ないのよね…これ…」

> i 3 3 9 3 1 — 3 2 1 5 <

ワタル「なんというか」

アスム「ポーズは…忠実です」

カズマ「アクションビーム？」

カズヤ「梅花の構えですよ！！」

ユリコ「だから嫌だったのに…！」

シヨウイチ「いや、序盤でこれならまだいいほうだぞ？世の中には、もっと酷い奴もいるんだ…」

シンジ「じゃあ次は、風祭シロウさんお願いします」

シロウ「いいだろう。見る、俺のスーパー１」

> i 3 3 9 3 2 — 3 2 1 5 <

カズヤ「…」

ヒロシ「ケイスケー、ケイスケー。ここにボケがあるよ、早く来てー」

士「スーパー１最大の特徴である、『パル。・フォル。レが着てい

る服の袖にあるヒラヒラした物体』がないぞ」  
ワタル「『ここは通さん』って感じですね」  
アスム「何か酷いですね」

シヨウイチ「今度は、天空ヒロシ」  
ヒロシ「任せて！ちゃんと特徴は捉えてるから！！」

> i 3 3 9 3 3 — 3 2 1 5 <  
カズヤ「……」

シゲル「…ケイスケ！ここにもボケが、早く来て突っ込んでくれ！  
！」

ユウスケ「…ザビー、だよな」

シンジ「ザビー、ですよな」

カズマ「何このスズメバチ違い」

ソウジ「何このビッチ臭」

ワタル「ソウジさんから今、凄い暴言が」

アスム「放っておきましょう」

ソウジ「では今度は、月島カズヤ君」

全「「「ここで本命ッすか！？」」「」」

カズヤ「見せてやる…これが！俺達星ノ宮天海大学が作っている、

S - 1 だッ！！」

> i 3 3 9 3 4 — 3 2 1 5 <

弦太郎「何かまともなのキター！！」

士「なんだ、この、妙な説得力！」

アスム「流石に毎回見ている人は伊達じゃないですね！」

ワタル「本当に、2番目に見せた人が恥ずかしく思えるレベルですよ！」

シロウ「何処のどいつだ」  
シゲル「お前だよ！」

ユウスケ「じゃあ今度は、シゲル君」

シゲル「何か、さっきの絵の後だとプレッシャーが…」

> i 3 3 9 3 5 — 3 2 1 5 <

カズヤ「……………」

シロウ「仁ケイスケー、星ノ宮天海大学技術科3年の仁ケイスケ（21）ー、ここにいいボケがあるぞー」

リョウ「…何故、いちいち仁さんと呼ぶんだ？」

ワタル「なんでしょう、この、雑魚怪人の香りは」

アスム「他のライダーの敵でいそうですよね」

シゲル「ぐああああああ！なんかムカつく（特にシロウ）！！」

士「じゃあ、今度は時雨だな」

リョウ「ああ。見てくれ、これが俺の…絵だ！」

ワタル「自信满满ですね」

> i 3 3 9 3 6 — 3 2 1 5 <

全「…何処からどう見ても本郷町のドSですありがとうございます！とついでにまたアアアアア！」

カズヤ「しかも、なんか、無駄に上手い…！orz」

ヒロシ「どうどう」

シロウ「馬か」

カズマ「じゃあ、1号さん！」

1号「分かった…でも、凄まじく自信がない…」

アスム「大丈夫ですよ、2番目かなり酷かったですから」

ワタル「あれを越えない限り、ビリになる可能性は薄いですよ」

シロウ「だとさ、紫電」

シゲル「俺じゃねえよ！お前だよ！！」

> i 3 3 9 3 7 — 3 2 1 5 <

全「「ブッ！！？」」「」

カズマ「……………」

ヒロシ「なにこれひどい」

リョウ「仁さん、早くツツコミの手を差し伸べてくれ」

シゲル「こりゃねーわー」

1号「orz」

カズマ「最後の方、如月弦太郎さん。さっさと絵を出して恥晒して  
撃沈してくださいーい」

弦太郎「酷い絵確定！？」

シンジ「カズマ、何食べたの？」

カズマ「ナニモタベテナイヨーカズマイツモノカズマヨー」

シンジ「ならいいや」

ユウスケ「放置しないでお願い！」

弦太郎「よし…こうなったら、タイマン張らせて貰うぜ！」

> i 3 3 9 3 8 — 3 2 1 5 <

全「「ブハッ！！？」」「」

カズヤ「……………」↑無言で梅花の構え

弦太郎「待ってくれ、5つの腕って言うもんだから、ちゃんと5本  
描いたんだ！」

ヒロシ「まさかとは思っけど、」

> i 3 3 9 4 5 — 3 2 1 5 <

ヒロシ「。で囲んだ所？」

弦太朗「ああ！」

全員「「「ブフォバツ！？」」」

カズヤ「…死んでみる？ねえ、赤心少林拳諸手頸動脈打、食らってみる…??」

ヒロシ「目が怖いよ？カズヤ」

〃〃〃

アスム「それでは、…くくく」

ワタル「結果の発表を、…ぷぷ…どうぞ！」

参加者「「「ドキドキ…」」」

士「発表する。今回、栄えある一位に輝いたのは……エントリーN  
o.6番時雨リヨウによる、【何処からどう見ても某DSです本当に  
ありがとうございます】！」

リヨウ「何？」

カズヤ「うわーっ、分かっていたけどショック…！orz」

シヨウイチ「何処が惜しかったんだろ…どっちも、かなり上手  
いんだが」

ソウジ「頭身の差じゃないのか？カズヤ君の絵は、頭身が頭身だから  
マスク部分と若干不釣り合いなことになっているが、時雨君のはデ

フォルメされているから…」

シンジ「2位は文句なしに、カズヤ君だよ」

カズヤ「はい…って言うか、それ以外にないって自分でも思います」  
全「…おい！」「」

アスム「さて、このまま3位を発表しても、花崎さんって分かりきっていますしねー」

ユリコ「Σそうなんだ」

ワタル「それでは、ビリの発表を…」

カズヤ「弦太郎」

全「…へ？」「」

カズヤ「問答無用で、如月弦太郎…お前は、お前はS-1を…人類の夢を、希望を、…俺達兄弟の約束の証を何だとオオオオオ！！？」  
↑背後に見えてはいけないオーラ

弦太郎「何かいるーッ！？」

士「——沖一也だ！あれは、梅花の構えを取る鬼の形相をした沖一也だッ！！」

ヒロシ「このゲテモノカレーどうするの？」

カズヤ「弦太郎の腹に叩き込む」

弦太郎「ひっ！？」

カズヤ「…覚悟しろオオオオオ！！」  
↑更に背後の生霊が増えた  
アスム「見えます…今度は、『人の夢の為に生まれた この拳…この命はその為のものだ』と言っているスーパー1の姿が！生霊が！  
！鬼神と化した沖一也さんのオーラと共に見える！！！」

ユウスケ「俺にはただのドS先生にしか見えないよ！？」

ワタル「それでは、次回の絵心大戦をお楽しみに！」

タクミ「次に絶望するのは…君だ…」

フォーゼ「終焉キターッ！！」↑ロケット逃走

カズヤ「待たんかアアアア！」↑オーラに沖とスーパー1とドS教師を従えつつ

シンジ「色々な意味で怖いな！おい！！」

## Ride002：キターツ！絵心大戦2012その1（後書き）

〈次回予告〉

龍騎『それでは、これより【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】を行います』

アポロガイスト「しかし！ディケイドに登場した私とは言えば…事あることに『なのだ』！これではまるで…まるで、バカボンのパパではないか！！」

X「知らないですよそんなの！」

スーパー1「つて言うかお前、そもそもライダーじゃないだろ」

タトバ「Σ今更！？」

士「じゃあ、『なのだ』に変わる新しい口癖を考えてみればいいな」  
カズマ「神敬介エエエエ！」

ケイスケ「なんだよ、その『クレアアアア！』みたいなの！？」

弦太朗「宇宙キター！」

ユウスケ「それはむしろスーパー1だ、うん！」

Ride003：行くのだ！仮面ライダーの主張その1

## Ride003：行くのだ！仮面ライダーの主張その1

龍騎『それでは、これより【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】を行います』

シャウタ「19回って何処から出てきた数字なんだろう…」  
タジャドル「あれじゃないか、…リマジの数」  
サゴーズ「えっと、リマジの人って確か…」

1号

2号

V3

ライダーマン

X

アマゾン

ストロンガー

スカイライダー

スーパ－1

ZX

クウガ

アギト

龍騎

ファイズ

ブレイド

響鬼

カブト

キバ

オーズ（王環ヒナ）

サゴーズ「……までは確定なんだっけ？」

タトバ「死なない人間で？」

ブラカワニ「誰か死ぬ前提なの、マイ息子タトバ！？」

ガタキリバ「正直、電王リイマジはピットかリンクでいいような……」

ラトラーター「ってか、はぶられてるZX以降と電王、Wって……」

龍騎「19の謎なんてどうでもいいんで、最初の発表者の方、登壇してください」

全「……どうでもよくないよー!?」「……」

X（でも、実際は本気でどうでもいいのかもしれない……）

アポロガイスト「——皆さん、こんにちは」

オーズ兄弟「……場違いキターッ!?!?」「……」

リュウガ「場違いにも程があるだろ!」

スカイライダー「X先生! あんたの友人ですよ!?!」

X「いや、初対面だから!」

アポロガイストはオーロラを使ってオーズ兄弟の世界に乗り込みました

龍騎『ひたすらどうでもいいので、さっさと始めちゃってください』  
全「「お前のスルースキル凄げえよ!」」

アポロガイスト「……私は、『仮面ライダーX』に登場する怪人の中でも、特に人気の高い怪人だ…それは、現代での支持を見れば分かることだろう」

ラトラーター「そうだったけ？」

プトティラ「プトわかない」

シャウタ「えーでも、どっかのランキングでは死神博士・キングダーク・シヨツカーライダー・蜂女じゃなかったっけ？」

X「しつ、言わないでおく優しさも必要だぞ…」

アポロガイスト「orz」

V3「あーあ、X先生がトドメ刺したー」

X「私ですかー!？」

スーパード「お前以外にいないだろー」

龍騎『落ち込んでないで、面白い話お願いしますねー。後、詰まっていますから』

リュウガ「お前も追い討ちするなよ司会者!」

アポロガイスト「——げふん。ともかく、キングダークに次いで有名な怪人だ」

タトバ（妥協したなあ…）

アポロガイスト「【仮面ライダーディケイド】でも、大シヨツカーの大幹部として活躍・最終回でラストを飾るなど、実に華々しい活躍であった」

サゴーズ「そうだったけ」

シャウタ「ごめん、相棒に出てくる人って認識しかしてなかった」

アポロガイスト「しかし！ディケイドに登場した私はと言えば…事あることに『なのだ』！これではまるで…まるで、バカボンのパパではないか！！」

X「知らないですよそんなの！」

スーパー1「つて言うかお前、そもそもライダーじゃないだろ」  
タトバ「Σ今更！？」

アポロガイスト「仮面をつければ、誰だって仮面ライダー！」

龍騎「その理屈だと、縁日のお面をつけている子供も仮面ライダーになりますよー」

リュウガ「何だよその例え！」

アポロガイスト「故に私は要求する！ディケイドのスタッフ達よ、私はXへの復讐よりも先に、貴様らへ復讐してやる！！『なのだ』キアラを作ってしまった貴様達を、私は許さないぞオオオ！！」

龍騎「煩いんで追い出してください」

X「あーほら、もう降りて降りて！愚痴りたいなら、カブトHFさんのおでん屋で愚痴りなさい！！」

エターナル「絶望がお前のゴールだ！」

シャウタ「それお前のセリフじゃない！」

アポロガイスト「おのれディケイドオオオオオ！」

タジャドル「それも違う人のセリフ！違う人のセリフだから！！」  
ブラカワニ「どんマイケル！」

龍騎「次の人が準備するまでの間、プトティラに歌ってもらいましょう」

全「……なんで！？」「……」

プトティラ「『プトプトげんきだもん！』の一番、歌うよ！」

タトバ「歌うんだ！？」

プトティラ『あくびして目が覚めて シャウタの美味しいご飯食べよう』

プトティラ『ベンちゃんと遊びながら 商店街探索しよう』

プトティラ『八百屋さんにおでん屋さん お肉屋さん魚屋さん』

プトティラ『龍騎の餃子屋さんで一休み お腹が空いたらお家に帰ろう』

プトティラ『笑い声絶えないね みんな大好き本郷町』

プトティラ『青い空見ていたら タジャドルいたからすとりえいん どうーむ』

くくく

エイジ「——プットツテイラーノ!!」

ヒナ「お兄ちゃん何叫んでるの!？」

エイジ「いや、何となく……」

カズマ「中継見てたけど、カオスだったねえ」

ショウイチ（中継あったのか……）

海東「何だか、アポロガイスト違いとはいえ、可哀想に思えてきたよ」

夏海「そうですね……なのだのだって、バカボンの見すぎじゃないのかって思っていましたけど……」

ケイスケ「いや、原典そこまで『なのだ』じゃないからな？」

士「じゃあ、『なのだ』に変わる新しい口癖を考えてみればいいな」

カズマ「神敬介エエエエ!」

ケイスケ「なんだよ、その『クレアアアア!』みたいなもの!？」

弦太郎「宇宙キター!」

ユウスケ「それはむしろスーパー1だ、うん!」

カズヤ「言いませんよ!？」

ショウイチ「口癖か……難しいな」

ユウスケ「だよなあ……」

シンジ「リンク君の『えええ……』みたいなものかな」

映司「冷静に考えると、よくその口癖でスマブラ世界内の主役張れたよね……」

士「ピットもな……いや、あいつ一定の口癖ないんじゃないか?」

ソウジ「そんな皆のために、ハイパークロックアップして調べてきたぞ」

全「……ソウジさん何やってんの!」「」「」

ソウジ「その結果が、これだ！」

士↓大体分かった

海東↓士

夏海↓笑いのツボ

ユウスケ↓…（ライ街だと「カレー」）

ワタル↓○○後で××です

シンジ↓誰が母だ、ライ

カズマ↓うえい、お母さん

タクミ↓リンク、やあめろおお

シヨウイチ↓俺を呼ぶなあああ！

ソウジ↓ん？

アスム↓師匠

映司↓パンツ

アंक↓アイス

弦太郎↓ダチ、宇宙キター

エイジ↓レヴァ

エイジス↓王環、映司

ヒナ↓むしろ言葉よりゴリバゴンツッコミ

プトティラ↓ぷう、ぷええ、ぷきゅ、プト介じゃないもん、きゅー

い、O O、OmO、OWO、T□T、ベンちゃん

ブラカワニ↓パパンシヨック！、マイペット、マイ息子、パパン、

ママン

シャウタ↓きゅいきゅいきゅい（以下略）、もふもふもふ（以下略）

タジャドル↓おおいッ！？

シス↓ふーふふーのふー

リンク↓えええ…

ピット↓お人よし勇者

ユウスケ「俺の結果アアアア!!」

シンジ「こればかりは酷い」

ソウジ「うーん、あることはあるかもしれないんだが、ユウスケはむしろ…」

ショウイチ「むしろ？」

ソウジ「——写真館組の中で、比較的優遇傾向にあるから口癖らしい口癖を作る必要がないとか？」

カズマ「正直、リンクも若干その傾向っぽいもんね」

土夏東「…orz」

ヒロシ「でも、俺達も決め台詞欲しいなあ」

リョウ「そうだな、名乗りが欲しいな」

ケイスケ「決め台詞でも、名乗りでもなーいッ！」

シロウ「しかし、アポロガイストの件は口癖というより…語尾につける言葉だな」

シゲル「ああ、確かに」

士「語尾につける言葉、か」

夏海「『ニヤン』とか、『ですう』みたいなものですね！」

ユウスケ「夏海ちゃん、…今上げた語尾、やる覚悟ある？」

夏海「ないですorz」

アスム「いい例題で、カズマさんの『うえい』ですよー」

カズマ「そんなうえいうえい言ってないうえい」

ワタル「言ってるじゃないですか！」

1号「じゃあ、例えば…ここのアポロガイストはどこか紳士的だっ

たから、『〜でしょう』とか？」

ケイスケ「気色悪いぞそれ」

リヨウ「なら、『〜でござる』」

ケイスケ「神話の怪人なのに日本風かよ！」

シゲル「『〜ですの』！」

ケイスケ「気色悪い上にどこのチーグル！」

シロウ「『〜アポロン』」

ケイスケ「そのまんまだろ！」

ハヤト「面倒だし、『〜ラフレシア』」

ケイスケ「結局植物かよ！」

アマゾン「ケイスケ、『〜ケケーツ』がいい！」

ケイスケ「それはお前の叫び声を流用したただけだろ！」

カズヤ「はっ、『〜ホームアドミアンサヤエントロピー』！」

ケイスケ「長い！面倒くさい、付き合いたくない！！」

ジョージ「…ならば、『〜ピロシキ』！」

ケイスケ「母国の食べ物語尾につけないでください！」

ヒロシ「『〜ゴルゴム』」

ケイスケ「それむしろBLACK関係だーッ！」

ケイスケ「…もう嫌だ、もう嫌だよ………こんな…orz」

エイジ「辛かったな、ジン…」

エイジス「お前は頑張った方だ…ケイスケ」

映司「皆、ケイスケ君がツツコミを放棄してシゲル君が代わりにやらない限り、ボケっぱなしなんだから…ケイスケ君を労わろうよ」

リイマジ昭和軍団「『〜ごめんスカイ』」

ケイスケ「——『なさい』はどうしたあああああ！！？」

ヒナ「誰か！誰か、本郷二丁目からX先生を…NOVEL大戦SUMMERでトマトが頭に刺さっていた、X先生に連絡をオオオ！！」

士「しかし、キャラを立てるためにも口癖は必須…よし！アポロガイストなんてどうでもいい、新しい自分を見つけるために、新しい口癖を考えるぞ…！」

全「「「おー！」「」」

ケイスケ「…アポロガイスト何処いったアアアアア…！！！」

これ以降、ケイスケが胃痛を訴えた為ツッコミ休暇となります

~~~~~

士「——通りすがりの、仮面ライダー『もやし』っ！」

夏海「士君！【笑いのツボ】押しますよ『ミカン』！」

海東「士、僕だけを見てくれ『マルス』」

ユウスケ「いや、設定だから『クウキ』」

ワタル「僕は…王になりたい『判決』！」

シンジ「今は…僕達がチームだ『また戦っていたのかこの人殺し』」

！

カズマ「あんたに俺の何が分かるって『オンドウル』！」

タクミ「やぁあめろおおお『ナマコムツコロ』！」

シヨウイチ「俺を呼ぶなあああ『おい、俺に何を』!」

ソウジ「クロックアップのできないお前など、もはや脅威ではない『おでん』」

アスム「僕達も戦いま『スウェーデン』!」

弦太郎「タイマン張らせて『宇宙キター』!」

映司「なんとかなるって。少しの小銭と、明日のパンツがあれば『ブリーフ』」

エイジス「今の映司を見捨てて逃げたら、俺は一生後悔する『もう何も怖くない』!」

ヒナ「もう、いいんだよ。苦しまないでいいの『亜種』」

エイジ「…ああ、そうか。最期の言葉は…それでいいんだな『プトティラ』?」

リンク「楽しそうな人達だなあ『カオス』」

ピット「あんたはあんたの道を行けばいいって、言われたばかりじゃないですか『バーロー』」

シス「——さて、オレンジコンボの実験だ!」『腸』」

レイラ「あだつ、いだつ!?!…ちよ、何で俺を攻撃してんだ『オニゴリー』!?!?」

タジャドル「だからって…それが弟を殺す理由になるか『厨二病』ッ!?!」

ガタキリバ「さつきから黙って聞いていれば…自分勝手な意見で人を殺すなんて、ふざけているにも程がある『アニメ』ッッッ!」

ラトラーター「あの時…手を離したくせに!どの口がそう言うんだよ『トライドオオオ』!?!」

サゴーズ「……えーっと、頭がライオンで…お喋りで、お調子者で、足だけ無駄に速い奴なんですけど『マツケン』」

シャウタ「何が『な?』だッ!冗談が過ぎるぞ『ウナギ』…!!」  
タトバ「…不遇と呼ばれたトラの一撃『普通』ッ!」

プトティラ「ぷう…せいべちゅわかない『ぷつとつちらーの』」  
ブラカワニ「——パパンここだよ『フォーリン・ラブ』ー!」

ハヤト「ああ、ちょっと、…頭が痛くなっただけ『ラフレッシュ』」  
シロウ「…思い詰めるなよ。お前の場合は、特に『アポロン』」  
ジョージ「私はこれから…君に改造手術を行う『ピロシキ』」  
アマゾン「アマゾン…ケイスケとハヤト、信じる『ケケーツ』!」

シゲル「…戦うんだよ!俺達が、俺達として生きるために『ですの』  
!!!」

ヒロシ「胸も苦しいし、…死にたいほど辛い『ゴルゴム』」

カズヤ「だけどこれは、俺の決めたことなんだ『ホムマドマミアン  
サヤエントロピー』」

リョウ「それが、…俺の答え『でござる』!」

全「…なんっじゃこりゃあああああああああ!!!!」

「  
X(not本郷町)「俺が知るか」↑寝転がってTV視聴中  
士「何かが台無しすぎる!何かが駄目すぎる!!」

カズヤ「お願い、これ何とかして、ツツコミ入れて!」

X「…只今、電話に出ることができません。“ピー”と言う発信音  
の後に、お名前と電話番号を」

シゲル「頼むからツツコミ…ボケに走られるとスゲエ辛い!」

X「只今、電波の届かない所にいるため、掛かりません。こちらは、

「LCCダカモです」↑寝袋就寝  
全「「「Xウウウウウウウ!!」」」

結論：無理に口癖を作るのはやめましょう

Ride003：行くのだ！仮面ライダーの主張その1（後書き）

次回予告

シャウタ「キターツ！絵心大戦2012」…第2回、始まるよ！  
タジャドル「本日の司会者は、俺達オーズ一家だ！」  
プトティラ「タジャ××どいて！>□<」  
タジャドル「せいりんぐじゃんぷっ！？」

シャウタ「うちの不憫でいいんじゃない？」

ラトラーター「うちの焼き鳥でいいんじゃない？」

ガタキリバ「うちの厨二病でいいだろ」

サゴゾ「うちのブラコンで」

タトバ「オーズ家の誇るシャウバ力振りを発揮する長男で」

全「——色んな意味で期待を裏切りすぎだアアアアア！  
！？」

ヒロシ「うっそおお！？凄く上手い、っていうか欲しい！」

スカイライダー「かなり同意！」

ケイスケ「何かの間違いだろ！」

Ride004：キターツ！絵心大戦2012その2

## Ride004：キターツ！絵心大戦2012その2

シャウタ「【キターツ！絵心大戦2012】…第2回、始まるよ！」

タジャドル「本日の司会者は、俺達オーズ一家だ！」

プトティラ「タジャ××どいて！>□<」↑テイルデイバイダー

タジャドル「せいりんぐじゃんぷっ！？」

ラトラーター「本日は、なんと！この方達にやってもらいます」

↑スルー

仁ケイスケ「…何とか、何とか勝ちたい」

月島カズヤ「負けない！」

天空ヒロシ「今回のお題は、あのライダーだからね…絶対負けないよ！」

時雨リョウ「全力を尽くそう」

弦太朗「前回の面目躍如、晴らせて貰うぜ！」

1号「だからなんで私は…orz」

紫電シゲル「よっしゃあ！せめて、下から3番目は確実だ！！」

本郷ハヤト「うげー、植物の絵を描くならいいのに…ったく」

ガタキリバ「さあ、今回のお題は…」

サゴーズ「【仮面ライダー（新）】に登場する、スカイライダー…

…先生！」

全「…なんで先生つけるの！？」

サゴーズ「いや、何となく…」

ブラカワニ「気持ちは分かるけどね」

士「スカイライダーと言えば、あれだな。冬映画でディケイド激情態に」

ヒロシ「それ以上言うとスカイドリルで腸決るよ？」↑超いい笑顔士「…すみませんでした」

映司「——えー、スカイライダーとは、主人公・筑波洋が趣味のハングライダーで空を飛んでいる途中にネオショッカーに襲われていた志度博士を助けたことにより、主人公が重傷を負うのですが…」  
エイジ「その志度博士がネオショッカーに戻り、スカイライダーとして改造したことによって、筑波洋は一命を取り留めたという」  
エイジス「重力低減装置によって飛行するセイリングジャンプと、スカイターボに乗ってバイクで壁をぶっ壊すライダーブレイク、更に7人ライダーリンチによって99の必殺技を得た…某スーパー1がドSなら、それとは対極のドMであるスイカだ」  
全「…最後誤解されるから!？」

ヒロシ「やだな、俺のほうがSですよ!？」

カズヤ「そんな問題じゃないから!？」

ケイスケ「SとかMとかどうでもいいから!」

ヒロシ「ケイスケはMだね」

ケイスケ「誤解されるからやめい!」

シャウタ「その理屈でいくと、タジャドルと親父はMか…」

タジャブラ「何故!？」

リョウ「S…M？」

サゴゾ「どう説明したらいいんだろう…」

ガタキリバ「えっと、あれだ、…攻める人と受ける人!」

ラトラーター「食う者と食われる者!」

タトバ「どっちも合っているから怖い!？」

リョウ「——成程…分かったぞ、……エイジスと王環君か！」

エイジ「Σ俺Mなのーッ!？」

エイジス「誰がSだと…?」

映司「じゃあ、俺は……どうなるんだろう」

ヒナ「…アंक相手だと、腹黒ドS発覚してるから……うん、映司さんSでいいんじゃない? エイジスと同じ顔だし」

映司「同じ顔だからってそんな扱いしないで!？」

ラトラーター「シャウタはどっちも、だな…」

シャウタ「お前は久々にメシ抜きにされたいか？」

ラトラーター「ごめんなさい…!」↑土下座

ガタキリバ「ラトラーターは余計なことするから、Mだな」

サゴーズ「俺は…」

タトバ「リンチくらうし、Mで」

サゴーズ「えええええ…orz」

タジャドル「それだと、タトバもMだな」

ブラカワニ「ガタキリバは……あれ、どっちかな」

タトバ「そういえば…」

シャウタ「50体分身して相手を攻撃するなら、SだろS」

ラトラーター「でも、50体一斉に攻撃されるならMもあるだろー」

トライド『ガオオオン（訳：それより、絵心大戦やらなくていいのか）?』

プトティラ「何言ってるのかわからないよベンちゃん…omO」

ユウスケ「まあ、犬だしなあ」

シンジ「えっ、これ、ネコ科だから…猫じゃないの?」

ワタル「どっちでもいいですよ!」

トライド『グオオオオン（訳：どっちでもよくねええええ）!!』

ソウジ「ふむふむ」

シヨウイチ「まさかとは思うが、分かったのか？」

ソウジ「『SとかMとかどうでもいいから、絵心大戦やろっぜ』みたいなことを」

トライド『グオン（訳：すげえ、大体合ってる）！？』

全「『あ、そうだった』」

カズヤ「…んー、」

タジャドル「どうした？」

カズヤ「3点ドロップしている絵を描きたいんだけど、相手は誰が  
いいかなって」

タジャドル「Σ何そのHEXトラウマ技！？」

映司「あー、ガンバライドか」

エイジ「作者はスカイライダーがトラウマになるほど、HEX行つて負けまくったからなあ」

シャウタ「うちの不憫でいいんじゃない？」

ラトラーター「うちの焼き鳥でいいんじゃない？」

ガタキリバ「うちの厨二病でいいだろ」

サゴーズ「うちのブラコンで」

タトバ「オース家の誇るシャウバ力振りを発揮する長男で」

プトティラ「タジャ。〇。ならいいよ。〇。」

ブラカワニ「マイ息子の全身真っ赤のほうだな」

トライド『グオオン（訳：相棒の色のコンボだからって優遇された、  
万年持病持ちだな）』

タジャドル「——お前らアアア！？」

エイジス「おいお前ら…本編で、スカイライダーとそのコンボで組

んだオーズに失礼だろ……」  
エイジ「レヴァ……」  
映司「……そう、だよな……」

でもタジャドルが人柱になりました  
タジャドルに関してはお題ではないので、資料（というか本人見ながら描いても）OKの為、評価対象にはなりません

弦太朗「スカイライダーって……どんなのなんだよ……orz」  
士「またかよ！」

1号「私も、まだ出ていないから分からないんだが……」  
ハヤト「……」↑無言作業

ガタキリバ「しょうがないな……スカイライダーというのは、」

筑波「——ライダーブレイクッ！」

——ドガアアアン！

全「……壁ぶっ壊されたアアア！？」「」

筑波「ライダーブレ（ry」

——ドゴオオオン！！

全「……またぶっ壊していったアアアア！？」「」

沖「……筑波さんあんたって人はアアアアア！」↑Vジェットに乗って追いかける

全「……なんか通りすがって行っただけ！？」「」

サゴーズ「……あーあ、だから、ライダータウンにある菊池西洋洗濯舗の一室を借りてやるなって言ったのに……」  
ブラカワニ「だって、ここしかアポ取れなかったんだもん」

ケイスケ「なんだよその新事実！？一瞬、オリジナルが世界を越えてやってきたかと思ったよ！」

カズヤ「壊した壁、どうなるんだろう…」

ヒロシ「さあ？」

DCDRW本編でも、ライダーブレイクは（今のところ1回だけ）出ます

ガタキリバ「えー、ヒントを続けると…スカイライダーは、イナゴです」

弦太郎「イナ…ゴ？」

1号「…？」

ラトラーター「バッタみたいなもんだよな」

サゴーズ「そして、空を跳べるライダー！」

タトバ「まあ、うちではスイカスイカって言われているけどね…」

リョウ「そうか、スイカか！」

シャウタ「ああつ、何か誤解していそうな人が！誤解していそうな人がー！！」

カズヤ「できた！」

ヒロシ「出来た！」

シゲル「よし、これは自信あるぜ！」

ケイスケ「うっうーん…微妙…」

リョウ「…できた」

ハヤト「できたと」

1号「よし！」

弦太郎「…できたぜ！」

ブラカワニ「え、その二人早くない？さっきヒント聞いたのに」

プトティラ「ぶきゅんOMO?」  
士「嫌な予感しかないな…」

~~~~~

ガタキリバ「それでは、皆の絵を見せてもらいます！」

ラトラーター「審査委員長は…【どたばた！オーズ兄弟】のスイク  
…スカイライダー先生…！」

スカイライダー「ラトラーター、お前歴史の平常点引くからな？」

ラトラーター「やめてくださいただでさえ低いのにorz」

タジャドル「アホだろ、本気で」

映司「ところで…どこら辺までが、許容範囲だと思います？」

スカイライダー「そうだな…相当変じゃなかったら」

全（（うわぁ…））

スカイライダー「大丈夫。一応、クセのある教師陣の中では、温厚  
な方だから…」

エイジ「きつとその温厚設定、崩壊するぐらい酷いの来るぞ？」

エイジ「特に、前回こんな絵を描いた奴らはな」

>i33937—3215<>i33938—3215<

スカイライダー「何それメチャクチャ期待できない！orz」

ガタキリバ「じゃあ、最初は…前回参加していない、ケイスケだな」  
ケイスケ「うげー、あまり自信ない…」

ラトラーター「大丈夫、1号と弦太朗よりは確実にいけるって」

シンジ「こういう言い方するのもんだけど、もっと酷いのがいたからね？恋愛コンボって言っているのに、筋肉隆々の天使描いている鳥頭とか…」

映司（アंकか…）

> i 3 4 0 4 5 — 3 2 1 5 <

全「…何となくそれっぽい！？」

シヨウイチ「おい、もう、こいつ優勝でいいだろ」

カズマ「はい、お開きー」

カズヤ「まだありますからね！？」

ラトラーター「自信のあったシゲルからいつてみる？」

シゲル「よっしゃ！前回よりは、自信があるぜ！！」

シロウ「どうだかな」

> i 3 4 0 4 6 — 3 2 1 5 <

サゴーズ「…あつ、何となく上手い！上手いけど、……セリフウウー！！」

シゲル「全国ガンバイダーの叫び（003弾HEX限定）！」

カズヤ「……その気持ち…メチャクチャ分かる！」

ケイスケ「『皆も頑張れ』的なセリフを言うから、殺意抱くんだよな！？」

士「ああ…お前のせいでやられてるのに頑張れるか、とかな！」

シヨウイチ「LRタジャドルで挑戦しようとしたら超技属性で、フルボッコにあった時の苦痛は凄まじいぞ！」

ワタル「そうそうそう！」

ヒロシ「……皆、三点ドロップしていいかな。特に士」

シャウタ「じゃあ…今度は、……なんとなく嫌な予感がした時雨さん」

リョウ「ああ。ちゃんと描けたぞ」

> i 3 4 0 4 7 — 3 2 1 5 <

スカイライダー「スイカ描くなアアアア!!」

プトティラ「スイカだ! O O」

タジャドル「スイカと説明したがばかりに…」

スカイライダー「いや、頭がスイカよりましだけどね…? orz」

タジャドル「よし、だったら今度は、ヒロシだ!」

ヒロシ「いいよ!」

> i 3 4 0 4 8 — 3 2 1 5 <

タジャドル「……」

エイジス「今からでも、ケイスケかシゲルのと交換してもらえ。な

…?」

ヒロシ「何で?」

士「しかも、何か必殺技決めた後かよ!」

ヒロシ「デイケイドにね?」

士「そして俺限定かよ!?」

ブラカワニ「怖いものばかり残ってるねえ…」

サゴーズ「だったら、もう、危ない人から見ていこう…」

タトバ「そんなわけで、弦太郎! カモン!!」

弦太朗「よっしゃあ！タイマン張らせてもらうぜ！！」

> i 3 4 0 4 9 — 3 2 1 5 <

全「「お前の発想相変わらず病気だなああ！！」」

映司「アंकと対決したら、本当に！？」

弦太朗「何故に！？」

ヒロシ「ケイスケ、真空地獄車教えて」

ケイスケ「マーキュリー回路必要だぞ」

ヒロシ「それか、赤心少林拳諸手頸動脈打やっていいと思う？」

カズヤ「…もつと酷い人がいた時のために、取っておきなさい」

サゴーズ「よし…もう、腹を決めた。1号さん！」

1号「まあ、自信はないが…」

> i 3 4 0 5 0 — 3 2 1 5 <

全「「あんたも本気で弦太朗とどっこいどっこいだなああああ

！！」」

1号「orz」

シロウ「ただし、酷いのは如月」

ユウスケ「それについて意見はない…」

弦太朗「嘘ー！？」

シャウタ「…うつわー、本郷さんにカズヤ…凄いのが残ったな」

タジャドル「カズヤはそこそこ上手いのが分かったから、能力未知数のハヤトさん行ったほうがいいぞ…」

ブラカワニ「そうだなあ…よし！本郷青年、絵を見せるのだー！！」

ハヤト「はいはい。…興味ないからどうでもいいんだよなー植物の絵ならやる気出たのに…」

全（（うわあこいつもきつと期待が…）（））

> i 3 4 0 5 1 — 3 2 1 5 <

全「——」色んな意味で期待を裏切りすぎだアアアアア！  
！？」

ヒロシ「うっそおお！？凄く上手い、っていうか欲しい！」

スカイライダー「かなり同意！」

ケイスケ「何かの間違いだろ！」

カズヤ「あなた興味なくてこれって……ちょっと、スーパー1描いて  
ください！それかXを！」

ケイスケ「ごめん俺X！無理なら、えーと、カリス！」

シゲル「ストロンガーかカブト！」

シロウ「V3……」

リョウ「ZXか、プティラ」

エイジ「プティラを……あ、オーズ兄弟のほうで！可愛い方のプ  
ティラで！」

映司「アंक！アंकを！！腕でも怪人態でもいいから！！！」

エイジ「シャウタ！シャウタ！」

シャウタ「ペガサス！」

プティラ「シャウタかパパンかベンちゃん描いて！O□O」

タジャドル「デルタ先生……！」

ガタキリバ「えっと、俺！無理ならラトラーター……！」

ラトラーター「俺、オア、ガタキリバ、オア、トライド！」

サゴーズ「マツケンか水戸黄門を！」

タトバ「お願いします……俺を！俺を書いてください……！」

ブラカワニ「ママンかマイ息子達かプティラを！」

士「デイケイド！」

ユウキ「はやぶさ君！」

賢吾「……フォーゼ、フォーゼを！」

弦太朗「ユウキと賢吾キター……！」

ハヤト「——描かねーよ……！」

タトバ「なんか…もう、…ごめんね………？」

カズヤ「うん、平気じゃないけど、大丈夫」

プトティラ「がんばって！かじゅや！！○○」

> i 3 4 0 5 2 — 3 2 1 5 <

タジャドル「俺エエエ！予想はしていたけど、俺エエエエエ！？」

タトガタラトサゴシャウ「わー予想通りの不憫だー」

全「揺るぎない不憫だー」

〃  
〃  
〃

タジャドル「いや、何かもう、結果分かりきってるけど…」

シャウタ「一応…発表してください？」

スカイライダー「……本郷ハヤト君で！」↑プレート貰いながら

全「ですよねー」

カズヤ「いいなー…プレート…」

ハヤト「↑タンポポ観察中

プトティラ「じゃあ、誰がビリなの？」

ヒロシ「士」

士「俺関係ないだろ!？」

ヒロシ「それか、弦太朗」

弦太朗「orz」

ヒロシ「又は……………1号さん」

1号「Σえっ!？」

ヒロシ「全員纏めて、殴り飛ばすよ?」↑超いい笑顔でスカイ変身士「ちよつと待て、俺無関係…!」

弦太朗「シゲル!シゲルはどうなんだ…暴言(?)書いてたぞ!!」

1号「待つてくれ…俺は、俺はまだ、死にたくない!」

スカイライダー(notスカイ、ブッコワスカイ)「……………赤心少林拳奥義…桜花の型…!」↑背後にネオショッカー大首領

士弦1「「「ぎゃああああああああああああ!!!!」」」

タトバ「【キターッ!絵心大戦2012】…次のお題は、皆気になるあのライダーだよ!」

シャウタ「ゲストには、俺の中学時代の担任が登場予定!」

ガタキリバ「それでは最後に…」

タジャラトサゴブトラ「「「シーユーネクスタースタッフ!」」」

士「…そんな問題じゃねえエエエ!？」

弦太朗「ぎゃー!ぎゃー!!」

1号「死にたくない…死にたくないイイイ!」

スカイライダー「ふーふふーのふー…!!」↑背後にネオショッカー

大首領と岩石大首領のオーラ

カズヤ「我が兄ながら、怖い」

ケイスケ「いつものヒロシだろ…」

次回の絵心大戦は、R i d e 0 0 8の予定です

## Ride004：キターツ！絵心大戦2012その2（後書き）

〈次回予告〉

弦太朗「頼む！誰でもいいから、誰でもいいから俺と交換しようぜ！！そして友達になろうぜ！！」

エイジ「結局それかよ！」

映司「悪いけど俺、小銭とパンツしかないんだ」

エイジス「本物ならいるぞ」

プトティラ「普通に、おともだちさがしじゃ駄目なの？」

オオタチ「たちえowo」

ファルコ「よし、採用。どう考えたってお前ら、友達少ないからこの機会に友達を積極的に作っていけ。以上」

ガタキリバ「あのバカ、X先生怒らせるなって言ったのに！」

ラトラーター「だから機嫌が悪かったんだ、土のアホ…！」

サゴーズ（バカとアホに言われてるよ…）

Ride005：探せ！君だけのベストフレンド

## Ride005：探せ！君だけのベストフレンド

弦太郎「orz」

エイジス「おい、どうしたんだあいつ」

映司「あー、何でも、仮面ライダー部の皆と一緒にポケモン（黒白）で交換しようと思ったたら」

・賢吾…「興味ない」で一蹴

・ユウキ…持っているのが同じホワイト

・美羽…ゲームに興味なし、そんな暇あったら自分磨き

・JK…ブラックだが弦太郎にしつこく絡まれる前に逃走

・隼…父親がゲームをする暇があったら努力を怠るなと煩かった

・友子…ゲームへの興味自体が薄い

エイジ「うわー、そりゃキツイな…」

弦太郎「バルチャイが、バルチャイが欲しいのに…バルチャイ……orz」

エイジス「本物取り寄せようか？」

映ヒナ「「本気でやめて！」」

弦太郎「頼む！誰でもいいから、誰でもいいから俺と交換しようぜ」

！！そして友達になろうぜ！！」

エイジ「結局それかよ！」

映司「悪いけど俺、小銭とパンツしかないんだ」

エイジス「本物ならいるぞ」↑オオタチ取り出しながら

オオタチ「たちえー」

ヒナ「私、むしろPSP派だから…」

カズヤ「まあ、誰しもゲームをやっているわけじゃないし…」↑ゲーム？それより勉強や鍛錬

ケイスケ「だよな」↑ゲームやってる暇あったらサークルor勉強  
ヒロシ「二人ともゲームっ子じゃないもんねー」↑そういう自分も  
宇宙の本ばかり読んでいた

ハヤト「興味ない」↑そんなのどうでもいい植物出せ植物

シロウ「同じく」↑実はポケモンならやっている上にブラックだが、

弦太朗がウザイので明かさず

シゲル「おいおい…」↑ホワイト

リョウ「…ばるちやい？」↑ゲーム自体やったことがない

オーズ兄弟「…俺達は家にゲームの類ないしねー」↑ただし  
龍騎の家ではやる

弦太朗「こうなったら…こうなったら、何としても皆と友達になつてやるぜー！」

海東「——だったら、この世界中の友達（お宝）がいる僕がレクチャーしようじゃないか！」

弦太朗「全世界！？すげー！」

ユウスケ「いやいや、虚勢だからね？虚勢」

士「第一、こいつにアスム以外のまともな友達がいると思うのか？」

海東「え、士、君と僕は友達じゃ」

士「『仲間は友達にはしない』(by・リンク)」  
海東「orz」

カズマ「海東なんて役に立たないから、」

海東「『なんて』！？ブレイド君風情が、『なんて』って言った！  
！？」

シンジ「うちの子馬鹿にすると絞め殺すぞ？」

海東「…すみませんでしたorz」

カズマ「真の意味で友達が多そうだな、この人に何とかしてもらおう  
と思います！」

ファルコ「ファルコ・ランバルディだ。よろしく頼むぜ！」

全「『『なんでお前なんだよ！』』」

ファルコ「俺が知るか！カズマのアホに、『暴走族率いていた上に  
貧乏パイロットチームの一員なんですよ、友達多いでしょ』って強  
制的に連れてこられたんだよ！！カズマのアホに！！！」

カズマ「Σ『カズマのアホ』2回言った」

映司「で、実際友達の数は何？」

ファルコ「えー…っと、そうだな、暴走族時代の奴らを含めていい  
なら100強…？」

ケイスケ(含めなかったらどうなるんだよ…！)

ピット「って言うか、ファルコさん出すぐらいなら普通はマリオさ  
んじゃ？」

ヒナ「あー、歴史あるもんね」

リンク「……マリオのは、友達じゃなくて『仲間』とか『協力者』  
じゃない？」

全（（（ご尤です…！）））

弦太朗「ところで、ポケモンはブラック？ホワイト！？」

「ファルコは！？… ホワイト…」

弦太朗「orz」

リンク「バルチャイ欲しいんですって、GTSやろうにもデータがないから探せないらしくて」

「ファルコ……マリオに頼むか、あいつ、ブラック持ってるから」

ピット「あーあ、マリオさん巻き込まれちゃッタ」↑ちなみにブラック

$$\begin{array}{c} \sim \\ \sim \\ \sim \end{array}$$

弦太郎「バルチャイキターツ！」

↑「ガマガル貰った  
マリオ」その等価交換がおかしいけどな……！」

ライター「まさか、ガマガル6体育でていたなんて思わなかった」

弦太郎「いや、だって、頭の奴がリーゼントみたいでイカすじゃねえか！」

エイジス「宇宙ライダーなら、スターミーとかルナトーン、ソルロツク、ピクシーなんかを使えよ……」

「ファルコ、あいつの目的達成したみたいだし、俺、逃げていいか？」

ケイスケ「『帰っていいか』じゃないんだな……」

弦太朗「まだだ！」

全「……!?!?!」

弦太朗「皆とダチになるために、ポケモン交換大会をしようじゃないかアアア!!」

全「……なんでだよポケモンから離れてくれよ!!」

弦太朗がこの後、士を追いかけて始めたのでオオタチが頭突きで鎮めました

プトティラ「普通に、おともだちさがしじゃ駄目なの？」

オオタチ「たちえowo」↑弦太朗の上に乗って得意げ

ファルコ「よし、採用。どう考えたってお前ら、友達少ないからこの機会に友達を積極的に作っていけ。以上」

リンク「えーでも、仲間と友達って≠じゃ」

ファルコ「リンクは封印されとけ」

ピット「まあ、実際問題、仮面ライダーって友達少ないですしね」

全「……orz」

士「待て、ちょっと待て、俺はまだ友達が多いほうだぞ……海東よりは」

夏海「何ですか!」

ユウスケ「俺のほうが多いって!」

カズマ「うえーい!」

海東「僕だって多いよ!?!」

映司「しょうがないな…だったら、皆の今の段階での友人付き合いを纏めてみることにしました（ただしリイマジ昭和は、星ノ宮三人組までとする）！」

ユウスケ↓2（ワタル、エイジス）

ワタル↓2（ユウスケ、アスム）

シンジ↓4（カズマ、ショウイチ、ソウジ、サンダース）

カズマ↓3（シンジ、ショウイチ、ソウジ）

タクミ↓2（リンク、エイジス）

ショウイチ↓3（シンジ、カズマ、ソウジ）

ソウジ↓3（シンジ、カズマ、ショウイチ）+1

アスム↓1（ワタル）

リンク↓2（エイジス、タクミ）

映司↓2（エイジス、エイジ） 後藤達はむしろ、『仲間』なので  
割愛

ヒナ↓1（ライ街のカザリ）

エイジ↓3（映司、エイジス、プティラ）

エイジス↓6（リンク、ユウスケ、タクミ、シャウタ、映司、エイジ）

タジャドル↓2（ライア、ギャレン）

ガタキリバ↓2（龍騎、ガタック）

ラトラーター↓3（龍騎、カブト、アギト）

サゴゾ↓2（タイタン、ドッグ）

シャウタ↓4（リュウガ、オーガ、ファイズ、エイジス）

タトバ↓3（ディケイド、アマゾン、電王プラット）

ブラカワニ↓5（龍騎SV、ライアSV、アギトSF、カブトHF、  
1号）

プティラ↓13（エイジ、V3、スーパー1、ライダーマン、X、  
アマゾン、グロージング、ブレイド、龍騎、ZX、スカイライダー、

オオタチ、ライダータウンの映司)

カズヤ↓1(ケイスケ)

ヒロシ↓1(ケイスケ)

ケイスケ↓2(ヒロシ、カズヤ)

オオタチ↓6(プトティラ、エルフーン、デスカーン、キリキザン、ドレディア、サーナイト) レイラは元主人、エイジスは現主人

サンダース↓5(シンジ、ドンカラス、ハッサム、ウインディ、キノガッサ) ユウヤは主人

士「…おい、プトティラ反則だろオオオ!?教師足すな教師!」

プトティラ「おともだちだもん…OmO」

リンク「士、楽屋裏から伝言」

士「何?」

リンク「『お前ちよつと、今すぐ楽屋裏に顔出せ by・スーパー1他一同』」

士「大体分かった…これが、死亡フラグと言う奴か…!orz」

ガタキリバ「気をつけろよ、X先生には特に」

ケイスケ(…“特に”って何?)

ヒロシ(…っていうか、教師と生徒の関係は適応されないんだね…)

エイジ「え、ヒナ、お前ライ街のカザリと仲いいの?」

ヒナ「仲いいっていうか…同情的っていうか、うーん、同じツツコミとしての苦勞を分かち合えるというか…」

カズヤ「…っていうか、プトティラを除いたらエイジスとオオタチが何気に…」

ファルコ「むしろ、エイジスの付き合いが妙な意味で濃すぎる」

ピット「仮面ライダー、何人いるんでしょうね?」

ファルコ「——プトティラとエイジス、オオタチはクリアで良さそうだな」

プトティラ「わーい！○○」

オオタチ「たちえーい○○」

エイジス「じゃ、後頑張ってくれ」

ヒナ「ああつ、ずるい！」

ファルコ「解放されたければ、最低でも6人に増やせ！……あ、ソウジのノルマは2人な」

ワタル「何故に！？」

ヒナ「でもね、私にだって切札はある……ライダーマン先生、スーパー1先生、スカイライダー先生、V3先生、そして弟切さん」

映司「あ、そういえば弟切さんとは仲良かったっけ？」

ヒナ「うん。もうあれ友達でいいよね」

エイジ「じゃあ、残りは？」

ヒナ「——本郷二丁目で散々ツッコミ入れたわよ……一人は腕換えるわ、一人は空飛ぶわ、一人は笑顔で腕換えるわ、一人はクレープ食べるわ！」

X「あー、うん、ヒナさんに申し訳ないから友達になってあげてください」

1ライ3「ふあーいず」

スカイライダー「……俺、空飛ぶスイカとか言われたのに……orz」

X「なるうか？」↑目が怖い

スカイライダー「はい……」

シャウタ「友達、なんて……引ッ込み思案の俺にそんなすぐできるはずがない……orz」

ヒロシ「プクリンプクリン、皆友達……たあーっ！><」

カズマ「友達…友達イイイイ！」

シャウタ「…あの二人はやめよう」

ケイスケ「つか、ゲームしてないのに何でプクリンとかリチャードの真似できるんだよ!？」

ユウスケ「サッカーやろうぜ!」

シゲル「それは何処の稲妻11!」

シャウタ「…あのー」↑おどおど

夏海「ええい、こうなれば、カズマさん友達になってください!」

カズマ「俺にも友達を選ぶ権利はあると思うの」

夏海「ならば…シンジさん!」

シンジ「あーもしもし、Lostの俺?俺だけど…頼娃坂さんと春沢さんと虎島君と城戸さんといいでに山羊野さん、友達と言えるなら誰??最大3人選べ」↑電話中

夏海「ならばユウスケ!」

ユウスケ「よく考えたら、俺、パレッタOKじゃん!パレッタもいいとなると、ユウヤ君とツイハークさん…はギリギリOK、よし6人達成!」

シンジ「あ、頼娃坂さんと城戸さんと虎島君?分かったー…よし、3人達成!カズマ、俺の友達はお前の友達にしておくから抜けるぞ!」

カズマ「うえーい!」

シヨウイチ「その理論なら俺も抜けていいか!?正直、抜けれる気がしない!」

ソウジ「ナットレイとチラチーノとフワライドは違うのか?」

ワタル「アスム…ここは、二人で組みましょう」

アスム「そうですね!」

ワタル「あ、ラトラーターさん、ガタキリバさん、サゴーズさん、タトバ、ブラカワニさん…僕達と友達になりませんか?」

アスム「ここは助け合いで行きましょう！」

タトガタラトサゴブラ「……いいとも！」

スカイライダー（利用されていることに気付いてないのか…）

ヒロシ「こうなったら…スカイライダー先生、友達になりましょう！」

カズヤ「スーパー先生、友達になってください！」

ケイスケ「ありかよそんなの！…ありならX先生に交渉してみるか」  
シャウタ「……orz」

ケイスケ「あれ、どうした。お前」

シャウタ「いえ…俺、引っ込み思案すぎてなかなか声掛けづらくてよく考えたら、リュウガやオーガ、ファイズも声掛けてもらったパターンだなあと…」

ヒロシ「あ、俺達もそんな感じだったよ？そういえば、最初は俺達、田舎育ちだからって虐められていたなあ」

カズヤ「そうそう。移動教室で、上級生がうちのクラスを使うことになったんだけど…誰よりも早くケイスケが来て…それがきつかけ」

シャウタ「そうなんですか？」

ケイスケ「まあ、友達っていうのはきつかけがないと作れないものだからな。お前もこの際、俺達と友達になるか？…数合わせとかそういうの抜きに」

シャウタ「…は、い」

プトティラ「プトもープトもー」

ヒロシ「いいよー」

オオタチ「たちえー」

カズヤ「え、この子も…？まあ、いいや」

V3「オマケに俺もー」

ケイスケ「…もう好きにしてくれ…」

シャウタ「っていうか、あんた教師じゃ」

ファルコ「終了！」

全「…げっ!?」

ファルコ「さて、楽屋裏で教師にボコられ、最悪にもXに『最初変身ポーズなかったくせに』という暴言を吐いて天に召された士以外は、友達が出来たか？」

ガタキリバ「あのバカ、X先生怒らせるなって言ったのに！」

ラトラーター「だから機嫌が悪かったんだ、土のアホ…！」

サゴーズ（バカとアホに言われてるよ…）

シロウ「ところで、何をしたんだ？」

X「え？ライドルホイップで手足の自由を奪って、ライドルスティックで顔面殴打して、ライドルロープによる電気ショックを30秒間続けた後に、ライドルロングポールで海に突き落としてきた」

シゲル「充分えげつねえよ！」

リヨウ「凄いな…」

シロウ「それならまだ軽い方だぞ!?…100段階のいくつだ！」

X「そうだな…45段階目」

シロウ「俺の知っている奴はな…その60段階目に分類される所業をやったのけたんだぞ…」

シゲル「何の話してるんだよ、さっきから!?」

プトティラ「シャウタ！おともだちできた？」

シャウタ「うん、出来た」

プトティラ「よかったね！」

タジャドル「辛うじてヒロシが…声を掛けてくれた……」

プトティラ「タジャ。○には聞いてないよ？O O」

タジャドル「おおいッ！？泣くぞそろそろ！」

弦太朗「——よし、友達が増えた記念に、皆でスマブラやろっぜ！」

全「「何故そうなる！？」「」

弦太朗「…頼むよ、やろっよ……皆で遊ぼうぜ…orz」

シロウ「お前、よく『ウザイ』と言われないか？」

オオタチ「ちっ」↑Wi iヌンチャクでリンク選ぶ

サンダース「ダース」↑Wi iヌンチャクでネス選ぶ

トライド『ガオン』↑GCコンでピット選ぶ

ソウジ「何気に参加者が…」

弦太朗「……よっしゃー！俺、キャプテン・ファルコンキターツ！  
！」

シヨウイチ「参加者ポケモン×2とペットだぞ。悲しくないのかお前」

ピット「おいトライド、僕使って負けたらどつかのオニゴーリに頭  
マミらせるからね？」

トライド『グオオン』（訳：何気にシャフトネタを取り入れるのやめてくれ）

詳細は分かりませんが、何らかの形でシャフトが新・光神話パル  
テナの鏡に関わっているようです

トライド『グオオオオン！』

オオタチ「ちー！ちー！！」

サンダース「ダダース！」

弦太郎「orz」↑ストック制バトルで真っ先に力モになってヤラレチャッタ

エイジス「そもそも、あいつらと挑むこと事態が無謀だろ……つかシャウタは俺のオオスバメ返せ」

オオスバメ「…○○」

シャウタ「もふもふもふ」

NOVEL大戦後、伝令鳩代わりに欲しいがためにオオタチ連れて捕まえに行きました

## Ride005：探せ！君だけのベストフレンド（後書き）

（次回予告）

龍騎『【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】続きましては…』

スカイライダー「皆が、皆が俺のことをスイカって！スカイなのに…スカイなのに！空、空なのにイイ！！」

タジャドル「スイカライド…スカイライダー先生、落ち着いて！」「ガタキリバ」そうだって、スイカb…スカイライダー先生！

ラトラーター「俺やガタキリバも似たようなものだって！」

サゴーズ「そうですよ、萃香…スカイライダー先生！」

カズヤ「元々は、ヒナさんがスカイライダー先生のことを空飛ぶスイカって言ったのが悪いんじゃない…」

ヒナ「だ、だって、あのギャグの世界じゃあの言い回ししか」

筑波「スカイですよ！す、か、い！！！」

ヒロシ「Sky！Sky！！！」

シゲル「だああああああ、煩いなこのスイカ軍団！」

Ride006：スカイ変身！仮面ライダーの主張

## Ride006：スカイ変身！仮面ライダーの主張その2

龍騎『【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】続きましては…』

タジャドル「本当に、今度は仮面ライダーで頼む。頼むぞ…！」  
ガタキリバ「でも、龍騎だしなあ」  
ラトラーター「主催者（＝作者）だしなあ」  
サゴーズ「そこ、メタ禁止」

スカイライダー「皆さん、どうも、スカイライダーです」  
全「「良かったライダーだ！」」

龍騎「えー、あんたオールライダースピノフでやったじゃないで  
すかーやだー」

スカイライダー「orz」

リュウガ「止めをこの段階で刺すな馬鹿兄！」

龍騎「じゃ、どうぞ」

スカイライダー「……えー、私スカイライダーは、本来ならば“仮  
面ライダー”と言うタイトルに沿ってその呼称で呼ばれるはずでし  
たが…共演上の都合で、スカイライダーとなって行きました」

龍騎「ちなみに、最初に呼んだ犯人ストロンガーですよ」

ストロンガー「俺！？」

シャウタ「うん」

スカイライダー「空を飛ぶからスカイ。うん、別にいいんじゃないかな…だけど、俺が言いたいのはそこじゃない！」  
タトバ「何処なんですか!?!」  
ブラカワニ「大体予想できたけどね!」

スカイライダー「皆が、皆が俺のことをスカイって!スカイなのに…スカイなのに!空、空なのにイイイ!!」  
タジャドル「スカイライド…スカイライダー先生、落ち着いて!」  
ガタキリバ「そうだって、スカイb…スカイライダー先生!」  
ラトラーター「俺やガタキリバも似たようなものだって!」  
サゴーズ「そうですよ、萃香…スカイライダー先生!」  
シャウタ「スイk…スカイライダー先生、大丈夫、バカキリバなんてどこかのオンドウル息子の流用だから!」  
タトバ「そうですよ、スイ…スカイライダー先生!」  
スーパー1「そうだなスカイ」  
スカイライダー「ラトラーターのように呼ばないようにするなどは言わない、だけど、——あんたはせめて隠す努力をしてくれよオオオ!?!」

龍騎「いやー、ラトラーターの対処一番正しいですね」

リュウガ「ガチでそうなのが悲しいな…」

V3「泣くなスカイライダー!」

スカイライダー「あんたも隠してエエエ!」

ライダーマン「あまり突っ込むと、この人達面白がっているだけですから、スカイ…スイ、……スカイライド」

スカイライダー「もう正直にスカイと言ってくれ…って名前エエエエエ!!!?」

X（ああ、昔から弄られ体質なのは変わっていないな…）↑同期

スカイライダー「うわあああああああああ…！」

ラトラーター「号泣しだしたよ！」

トライド『グオオン（訳：お前ら血も涙もないな）！』

プトティラ「頑張つて、しゅかいらいだーせんしえ！〇□〇」

X「スカイライダー先生！降りましょう、もう降りましょう…！」

スカイライダー「緑だからって、こんなのってないよ…あんまりだよおお…！orz」

スーパー「スカイカー」

スカイライダー「スカイじゃないもおおおおん…！」

X「ああつ、遂にはプトティラの『プト介じゃないもん』が！流用された…！」

V3「スカイは煩いな、プト介」

プトティラ「プト介じゃないもん。…あんまり、しゅかいらいだーせんしえ虐めないでね…？〇m〇」

ストロンガー（コイツしか良心がいねえ！）

龍騎『何かもう手遅れですけど、いつもの歌って誤魔化すパターンで行きましょう』

リユウガ「パターン言うな！」

プトティラ「はいはい！新曲がいい…！」

全「…新曲あるの！？」

V3「作詞：俺とタトバ、作曲：ライダーマン」

シャウタ「タトバにしてんの！？」

タトバ「ごめん…でもV3先生は解説しかしてない！その部分しか仕事してない…っていうか！それは駄目、スカイライダー先生にトドメさすからアアア…！」

プトティラ「『おいしいスイカの歌』、1番いくよ!」↑マイク持ち  
V3「おー」↑マイク持ち  
タジャドル「は?ちょッ…はああああああ!」?  
ZX「…ちょおおおおお待てええええやあああああああー  
!?!」?

V3の説明は本来かなりの長文ですが、プトティラの合いの手が入るため変なところで文章では切れております

V3「ようしプト介、これから美味しいスイカの見分け方を教えるぞ」

プトティラ「プト介じゃないもん」

V3「まず最初に、スイカというのはウリ科のツル性一年草といわれている」

プトティラ「ぷう」

V3「ウリ科と言うのは他にも、キュウリやカボチャ、トウガン、ヘチマ、メロンなどがある」

プトティラ「ぷっぷう」

V3「ツル性とはツル植物とも言われていて、」

プトティラ「ぷいぷ」

V3「自らの力で体を支えるのではなく」

プトティラ「ぷきゅん」

V3「他の樹木を支えにすることで」

プトティラ「ぷとぷと」

V3「高い所に茎を伸ばす植物だ」

プトティラ「ぷっきゅん」

V3「そして一年生植物とは種子から発芽して一年以内に」

プトティラ『ねーねー』

V3『何だプト介？』

プトティラ『プト介じゃないもん スイカの見分け方は？』

V3『あ、そうだった』

プトティラ『きゅーん』

V3『美味しいスイカの』

プトティラ『見分け方ぶうぶうぷー』> <『

V3『へそが緑なら』

プトティラ『美味しいよOωO』

V3『叩いてポンポンと』

プトティラ『鳴ったらうまいよー』> <『

V3『スカイ叩いたけど』

プトティラ『気にしないOωO』

ブラカワニ『気にしてあげてー！？』

シャウタ『タトバ…』

タトバ『心からごめん！』

龍騎『ちなみに、スイカの歌の2番からはスカイライダー先生が・3番からはX先生が・最後部分ではスーパー1先生が乱入しなくてはならない予定です』

X『何その重労働！？』

タトバ『…大丈夫、X先生はライドルライドル嫌いだから！』  
X『いや、私じゃなくて、スカイライダー先生（の心身）が！』

~~~~~

ヒロシ「本当に、…なんでなのでしょう…」↑背後に魔人提督

筑波「そうだよなー」↑背後にネオショッカー大首領

士「おい、何でライダーブレイク中毒がいるんだ」

アスム「『異世界の俺がスイカスイカと言われていると聞いて』だ  
そうです」

海東「凄い理由だね」

沖「…本当に、あの人は…orz」↑机ダン

カズヤ「沖さん、これでも飲んで落ち着いてください…俺なんて…」  
↑互いのグラスにお酒注ぐ

夏海「どうしてお母さんもいるんですか？」

シヨウイチ「息子いるところに母ありだ」

ソウジ「そうそう」

シンジ「それでいいのかあんなら、そして絞められたいのかあんなら」

カズマ「うえい？」

敬介「……親父イ……」↑酔いどれ中

ケイスケ「神さん、その気持ち分かるよ…俺だって…！」↑泣き上戸

シロウ「あっちもあっちで、何をしているんだ」

風見「【父親喪失の会】」

城「不吉じゃねーか！」

シゲル「つか、ケイスケ軽くネタバレ！もう手遅れだけど！..」

村雨「皆酔ってるな...」

リョウ「ああ。俺達も、一杯やろっ...」

ジョージ「そうだな、皆で飲もう...ふふふ、ゴッドショッカーのバ  
ーロー...」

結城「デストロン...orz」

一文字「所で、いつからオリマジ大宴会になってるんだ、ここ？」  
ハヤト「さあ？」

一号、アマゾン欠席中

ヒロシ「ねーねーなんでスイカなのーなんでスイカなのー？」

筑波「答えないとライダーブレイクしますよー」

士「こら、お前ら、腕引っ張るな！」

シンジ「...なんでお前主人公なのー？」

カズマ「なんでチーズなのに出版あるのー？」

ソウジ「なんでお前もやしと言われているんだー？」

シヨウイチ「なんでお前電柱壊しておいて逮捕されないんだー？」

士「...orz」

ユウスケ「ああつ、精神アタック！精神アタックが！！」

カズヤ「元々は、ヒナさんがスカイライダー先生のことを空飛ぶス  
イカって言ったのが悪いんじゃ...」

ヒナ「だ、だって、あのギャグの世界じゃあの言い回ししか」

筑波「スカイですよ！す、か、い！！」

ヒロシ「S k y！S k y！！」

シゲル「だあああああ、煩いなこのスイカ軍団！」

ハヤト「あれ？今日は珍しくお前が突っ込みなんだな」

シゲル「しょうがないだろ、あれを見る！！」

敬介「——— 大事な人達を失うぐらいなら……もう……親しい人を作りたくない……orz」↑バーボン5本目  
ケイスケ「——— もう嫌だ！俺のせいで、俺のせいで親父や……たくさんの人達が……orz」↑焼酎3本目

シゲル「……Wけいすけがツツコミとして機能してないからだよ！」

城「いや、うちの敬介もありツツコミとして機能してないし……っ

ーかお前毎回ツツコミじゃないの！？orz」

シゲル「……ケイスケが駄目になったときだけ出勤……」

城「なんで（ギャグとシリアスの壁があるとはいえ）そんな精度があるんだよ、リイマジ昭和ああ……！orz」

筑波「こうなったら、スカイライダーによるスカイライダーのためのスカイライダーの反乱を起こそう！」

ヒロシ「そうですね！このままじゃ、スカイライダー先生が浮かばれないです……！」

ユウスケ「無駄に燃えてるな……」

士「所で、それを誰に言うんだ？」

Wひろし「それは……」

（ ）

スーパー1「で、俺が呼ばれたと」

V3「茶菓子まだかー？」

X「……なぜ私も？」

プトティラ「エイジー！><」↑エイジにぎゅー

エイジ「プトティラー！」↑プトティラにぎゅー

映司（王環さんに絞められて、よく平気だなあ……）

エイジス「というか、何でお前達も来たんだ？」

シャウタ「プトティラが、王環さんに会いたい会いたいって煩くて

……」

エイジス「いや、むしろ助かる」

ヒナ「お兄ちゃん、禁断症状出してたからね」

筑波「いいですか！よく考えれば、あなた方が一番スカイカスカつて言っているんですよ！？」

ヒロシ「そうですよ！スカイライダー先生に謝ってください！！」

X「あの、何故私まで？」

シゲル「そりゃあ……あんたは、あっちのフォローしてもらいたいからだろ」

城「ああ……もう、あれ、俺達にはどうしようもないから」

沖「ヘンリー博士…父さん、母さん、玄海師範…弁慶…orz」↑  
ウイスキー5本目

カズヤ「父さん、母さん、師範代、ヒロシ、ケイスケ、敬一郎博士  
…もう嫌だ、嫌だよ…俺のせいで…orz」↑ウイスキー5本目  
敬介「…どうせ俺なんて、爆発ネタが主流さ…タイガーロイドに  
負けたさ…人体欠損・洗脳されて仲間と戦うお決まりパターンやら  
れたさ…！orz」↑バーボン6本目

ケイスケ「——俺は技術者として、親父のように優れた才能がある  
わけじゃない…俺には才能が無いんだよ…！orz」↑焼酎5本目

X「何これ荷が重い！」

ラトラーター「浄化フラツシュOK？」

風見「無理だな、特に沖はバダンシンドローム再発だ」

城「バダンシンドロームと無関係のリイマジまで同じことになって  
るけどな」

プトティラ「プトが癒すよ！owo」↑オオタチの着ぐるみ着ながら  
シャウタ「何それ癒される！！」↑もふモードON

プトティラ「Xせんしえも皆を癒すよ！」↑サンダースの着ぐるみ  
渡しながら

X「……………え？」

X「…orz」↑結局サンダースの着ぐるみ着た

プトティラ「ごめんなしやい…omo」↑尻尾で慰め中  
シャウタ「もふもふもふもふ」↑プトティラもふもふ中  
ガタキリバ「今度から、年齢考えような……うん」

スーパード「いや、だってからかうと面白いし」

筑波「それが駄目なんですよ！スイカ、スイカって！！」

ヒロシ「スカイライダー先生にだって人権はあるんですよ！先生だって、スーパーマーケットとか言われたくないでしょう！？」

スーパー「いや、それあまり言われないな…」

サゴーズ「ドSとは言われてるけどね」

この後サゴーズは赤心少林拳諸手頸動脈打を食らいました

サゴーズ「↑動かない

タジャドル「アホだろ、本当に」

スーパー「だって緑に黒だし、赤字のマフラーに斑点だし、スイカ要素満載だろ！」

筑波「そうであるとしても、それだけでスイカと言っちゃあいけませんよ！」

ヒロシ「スーパー1先生だって、腕の奴をそうめんとか言われたらどうするんですか！？」

V3「茶菓子うまい」↑夏海のプリン食べながら

夏海「ああつ、皆に内緒で買った私のプリンがー！」

全「「…ほう？」」

筑波「俺だって、小さい頃はよく佃煮って呼ばれて…その拳句イナゴのライダーですよ！本当の佃煮、いや筑波煮ですよ！？」

ヒロシ「俺なんて…俺なんて、虐められていた時こけしって言われましたからね！？表情変えないでいつも笑っているからって理由で！」

士「佃煮にこけし…ブツ」

エイジス「お前、人のこと笑えないぞ…もやし」

タジャドル「俺なんて、現状維持でタジャ××…」

ガタキリバ「バカキリバ…」

ラトラーター「アホラーター」

サゴーズ「押すーゾ」

シャウタ「もふ魔神」

タトバ「普通orz」

ユウスケ「ライ街限定で、カレー軍曹」

シンジ「終末サゴーズ、妖怪タツミドラグシンジレッダー、破壊神

龍騎、終焉。。。、混沌。。。、お母さん…今更数え切れるか!!」

カズマ「ガードベント・カズマ」

ショウイチ「絶叫王orz」

ソウジ「教組？」

映司「リュウガサバイブ激情態、映司さん目エ怖！モード」

エイジス「歩く生存フラグorz」

敬介「歩く爆発フラグ」

ケイスケ「歩く絶望フラグ」

X「歩く教育指導スイッチ」

沖「歩く影薄フラグ」

カズヤ「歩く他人への死亡フラグ」

シゲル「——絶望しかありやしねえ!!」

城「何だおい、これ、Xとスーパー1関係ヒデエ!!」

一文字「あと沖、お前今本誌では主役編だから！スーパー1に変身できなくても主役だから!!」

沖「…追加、歩く変身不可フラグもといバダンシンドロームフラグ

…orz」

一文字「あれ？」

全「…アホオオオ!!」

QB「僕と契約して、魔法少女になってよ!」

全「…ナズエオマエガイルンデイス!？」

QB『経営戦略だよ。第二次成長期の少女達の、希望から絶望への転換期を利用したエネルギー回収……だけど、それよりももっとエントロピーを凌駕しているのが、昭和時代の仮面ライダーさ!』

シゲル「清々しく言うなよ!」

城「そして、魔法“少女”じゃねえだろそれ!」

シンジ「そういえば、俺達も以前クソ面倒なQB君と面会したことがあるんだが…」

カズマ「うん、でもあれきつと本物」

ソウジ「ああ、…分かった」

シヨウイチ「分かりすぎて、辛い」

QB『君は、漫画版では場所の都合で延々と後回しにされた挙句…バダンシンドロームの影響で変身不可能な状態に追い込まれているんだよね?』

沖「↑トドメ

昭和ライダー勢「↑沖イイイ!?」「↑」

異世界一家「↑↑やっぱり」「↑」

筑波「やめて、彼をこれ以上虐めないで…!」

村雨（筑波さんから意外な言葉が!?!）

QB『ところで君が雑誌移転後、ようやくまともな出番を見せるのは4巻の辺り…3巻では下手をすればXが主役に近いんじゃないかという』

沖「……ふふふ、そうさ、どうせ俺は…チェックマシンがないと変身すらできないさ…!orz」

ブテイラ「らめええええええO□O」

X「そろそろ黙つところか…お前は…」↑QBの頭をアイアンクロー

QB『きゅブフォアッ』↑頭グシヤア

全「『教育指導スイッチキターッ！！？』」  
タジャドル「シャウタセーフ！」↑シャウタの目を塞ぎながら  
ブラカワニ「プトティラセーフ！」↑プトティラの目を塞ぎながら  
昭和ライダー勢「『凝固  
リイマジ昭和勢』」↑上に同じく  
冲敬カズケイ「『酔いが醒めた  
Wひろし』」↑笑顔氷結  
DCD軍団「『ソウジ以外硬直

QB2『まったく、代わりの体はいくらでもあるけど無意味に潰され  
ブギョバツ』↑ライドルスティック貫通

QB3『キュブブブブ』↑口から泡

X「人の氣にしていることを、ズケズケと攻めるのは、……や・  
め・よ・う・か？」↑QB3首ボキヤ

士「あいつなら、総てのインキュベーターを殺せる気がした」

冲「俺、希望を持って頑張ることにします、そうしないと、……X  
に殺される……！」↑ガクブル

カズヤ「俺も……」

敬介「……ああ……」

ケイスケ「うん、そうだな……あの光景（『QB一方向的リンチ』）見て  
いると、そう思える」

ソウジ（——ところで、スカイライダーのスイカ問題はどくなっ  
たのだろうか……）

## Ride006：スカイ変身！仮面ライダーの主張その2（後書き）

〈次回予告〉

カズヤ「本日は、ここ、本郷町立一文字高校の…特別指導室に来て  
おります！」

ヒロシ「ここでは、一文字高校の授業を体験できるそうですが…」

士「いや、『特別指導室』だろ！？何かおかしい、おかしすぎる！」

スーパー1「はい、それでは…」

士「やっと授業か」

スーパー1「今から3分以内に着替えてグラウンドに集合！」

全「『ええええええー！？』」

士「くそっ、当たらない…あのドSライダーに当たらないッ！」

スーパー1「赤心少林拳奥義、梅花の型（手を使わないバージョン）  
！」

ケイスケ「それただの回避だから！梅花違うから！！」

シゲル「それでも、何だよあの回避力は！？ドッジボールなのに当てられないって鬼かこれ！」

## Ride007：授業体験！スーパー1編

カズヤ「本日は、ここ、本郷町立一文字高校の…特別指導室に来て  
おります！」

ヒロシ「ここでは、一文字高校の授業を体験できるそうですが…」  
士「いや、『特別指導室』だろ！？何かおかしい、おかしすぎる！」

タジャドル「——何らおかしいことはないぞ？」

ガタキリバ「むしろ、ある意味で正解だろ」

ラトラーター「折檻的な意味でな」

サゴーズ「ほら見てよ、電気椅子自作するレベルの人なんだから」

シャウタ「あそこには、ギロチンもあるからな」

シヨウイチ「ちょ、待て！何か不安要素が満載過ぎるぞ…なぜに拷  
問器具が！？ここは特別視同質じゃなくて、死刑執行室じゃないの  
か…！？」

ワタル「盗んでいいですかね」

カズマ「盗むの？」

アスム「盗んだら殺されますよ、ワタル！」

プトティラ「ぷっぴーい○○」↑お絵描き中

ユウスケ「和むなあ」

シンジ「もう、プトティラ教でも作れば？」

エイジ「何それ作りたい」

エイジス「何それ王環殴りたい」

映司（この状況下で、『タジャドル教作りたいなあ』とか言ったら、王環さんとエイジスに殺される気がする…後プティラ）

弦太朗「って言うか、今回って何するんだよ」

タトバ「拷問じゃない？」

ブラカワニ「何それパパン泣きたい」

シャウタ「親父死なないだろ。エイジスの次に」

エイジス「おい！とんがりコーンを差し置いて、何故俺！？」

カズマ「ガードベントじゃないよ」

タクミ「さっき、“授業体験”って言っていませんでしたっけ…？」

ハヤト「あー、暇だな…」

シロウ「まったくだ」

シゲル「まだ始まらないっていうのもあるけどさあ」

ヒロシ「宇宙関係の話がいいな」

カズヤ「…お前、星ノ宮行つて来たら、ヒロシ…」

ケイスケ「所で、海東がいないな」

夏海「あ、そうですね。ダブルの二人はいるのに」

翔太郎「おいそんなぞんざいな扱いかよ！」

スーパー「よし、全員集まっているようだな」↑海東引き摺りながら

海東「↑屍

士「海東オオオ！」

ユウスケ「【分岐されし未来】を思い出すレベルの重傷だぞ！一体誰が…」

夏海「その犯人、ユウスケですよね！？」

ユウスケ「今回は違うよ!」

カズマ「分岐認めちゃうんだ!」

ソウジ「カズマがツツコミになってきている件について」

シヨウイチ「しかし、ボケとしてもシンジ並みの黒さが出てきている件について」

三十路「……悪影響(母の)?」

シンジ「あんたら絞め殺すぞ」

スーパード「いやー、俺のブルージェットを盗もうとしていたからな。このアホ」

シヨウイチ「……それは海東が悪い。届け、出そうか」

スーパード「一時間吊るしておくから大丈夫」

アスム「それかどうかと……」

スーパード「これでよし」

海東「↑教室の外から見たら上窓にマミられているように見える吊るし方

ユウスケ「……吊るすつて、首吊りで!」

スーパード「本当に絞めないように、首にタオルとスポンジ巻いてあるから大丈夫」

カズヤ「大丈夫って問題でもないような気がしますけど!」

ヒロシ「そうですね。——せめて、吊るすなら窓際に……坊主にして吊るしましょう!」

ケイスケ「てるてる坊主!」

リョウ「所で、この拷問器具は……私物なのか?」

スーパード「昔からあったぞ」

タジャドル「昔……って、……うちの学校、俺が一年の時までX先生が教育指導員だったけど……」

ガタキリバ「まさか、あの人の…？」

サゴーズ「どうしよう。スカイライダー先生に、『同期だからって警戒してないとヤバイ』とか言っておくべきかな」

ラトラーター「ここは龍騎を呼ぼう」

龍騎（電話越し）『特別教室の拷問器具？——あー、それ、1号校長がまだ新任の先生だった時からあったみたいだっけ。あとX先生は使ってないって』

ラトラーター「どもっすー」

龍騎『でもスーパー1先生は有効活用してるけどな』

ガタキリバ「犠牲者だから言えることだな」

タジャドル「ちよい待て！X先生に100段階中100段階目で絞められ、スーパー1先生の地獄折檻を受けて生きているのかあの龍騎！？」

エイジス「——良かった、俺以上に死なない奴がいた！」

翔太郎「そこ、喜ぶ所なのか！？」

スーパー1「…龍騎、後で電気椅子の刑だな」

シゲル「ああ、死刑宣告…死刑宣告が！」

ヒロシ「……どうせなら、これ使いましょうよ。刃をオリハルコンに変えて」↑ギロチン叩きながら

スーパー1「その発想はなかった」

カズヤ「ヒロシイイ！」

ケイスケ「流石…流石、スーパー1になるはずだった男！発想がドS教師と一緒にかよ！！」

士（そう言われれば、カズヤにはどうしてもスーパー1というよりスカイライダーの臭いしかなかったな…）  
シンジ（……<sup>スーパー1</sup>発想の病気と、<sup>スカイライダー</sup>不遇体質か…）

ソウジ「ストロンガーは、この世界のストロンガーと違和感を覚えなかったんだがなあ」

シヨウイチ「V3コンビは既に対極だがな」

カズマ「この世界のV3先生がおかしいんだよ」

タクミ「ZXとライダーマンは…どうだろう。アマゾンなら〓でいいかもしれないけど」

映司「2号に関しては、オーズ兄弟で出ていないからどうにも…」  
文字さんと本郷（リイマジの方）さんは、まあ近いとは思…」

エイジス「——え、シスとリイマジ2号だろ…（変人的な意味で）」

エイジ「まあ、あいつより人間味があるのが2号だけだな…」

翔太郎「そこまで言ったら、Xどうなるんだよ…」

全「…」

プトティラ「わかんない○○」

ケイスケ「分かりたくない」

——キーンコーンカーンコーン♪

スーパー「はい、それでは…」

士「やっと授業か」

スーパー「今から3分以内に着替えてグラウンドに集合！」

全「…ええええええええー!?」

タジャドル「この人、体育教師だぞ」↑体育帽子被りつつ

シャウタ「本当は数学教師にしたかったらしいけどね、アメイジン  
グ先生が奪ったから」↑ポカリ準備

プトティラ「梅花教えてくれたよ！」↑麦藁帽子被りつつ

士「ツツコミどころはたくさんがるが、とりあえずプトティラ、麦  
藁帽子は違う！」

プトティラ「これでOKくれたもん!>□<」

カズマ「先生！俺、ブルマです！！」

ショウイチ「なんでじゃい！」

翔太郎「先生、俺、…電波塔の道化師です…！orz」

フィリップ「先生、僕は若菜姉さんの服なんですが」

ユウスケ「先生…【戦国鍋TV】の織田信長の服を俺に渡すなら、カズマに蘭丸の服をあげてください！」

シンジ「先生…俺、学ランです！」

ソウジ「俺なんて武士の服だぞ？」

ヒロシ「俺はショッカー戦闘員の黒タイツだったよ？」

カズヤ「…沖さんの道着だった」

ケイスケ「…カオスじゃねーかッ！」

（そして外）

ソウジ「ショウイチだけデフォルトずるい」

カズマ「ずるい」

ショウイチ「仕方ないだろ！俺だけなかったんだ！！」

シンジ「その服、コスプレ扱いされているんじゃないですか？」

ショウイチ「orz」

士「俺なんて、シマウマの着ぐるみだからな」

ユウスケ「それにしても、夏海ちゃん遅いな…」

スーパード「よし、集まったな」

タジャドル「夏海がまだです」

ラトラーター「無理もないと思うぞ」

夏海「……」↑ナツミカンの着ぐるみ

全「……ブハツ!?」「」

ラトラーター「な?」

タトバ「何故そんなことに……ぷぷぷ」↑帽子

夏海「あのドS先生、いつか絞められればいいのに……!orz」

プトティラ「……ミカン割っていい……?O O」↑メダガブリュー構える

ガタキリバ「お腹空いたのか!？」

シャウタ「いや違う、ドS……もといスーパー先生の悪口言ったことに怒っているんだ!あの人プトティラには優しいから……!」

ブラカワニ「これが一番接点の多いV3先生だと、色々まずいんじゃない?」

ラトラーター「俺はガタキリバの意見に賛成しておく。じゃないと怖い」

スーパー「今日は、授業体験だし……適当にドッジボールでもするか」

士「待て!俺と夏海が不利だろ……!」

アスム「何言っているんですか!僕の……オニゴーリに比べれば、まだマシじゃないですか……!」

ワタル「僕のキング衣装に比べれば!」

タクミ「……良かった、念のために体操服持ってきておいて……!」↑  
狼の着ぐるみが準備されていた

シロウ「俺は何で厚着のコートなんだ」

シゲル「俺はアメフトの服だよ」

ハヤト「俺なんて、何故かマジグリーンなんだけど。正直汗臭い」  
リョウ「俺は……ストレッチマンの服装だった」

ヒロシ「うわぁ、懐かしい……全身黄色タイツ」

カズヤ「そういえば、ケイスケは？」

ケイスケ「——死んでいいですか俺エエエ……！orz」↑キユアミ  
ユーズ（黄色Ver）

カズマ「やった女装増えた」

フィリップ「女装の会ができるね！」

スーパード「さて、チーム分けするか」

エイジ「俺見学でいいですか。海東いないし、ボール破壊するから  
スーパード「許可する」

## Aチーム

・土

・夏海

・ワタル

・アスム

・ショウイチ

・フィリップ

・翔太郎

・映司（1000回記念のパンツ姿）

・弦太朗（頭にユウキの被っていたロケット）

・カズヤ

・シロウ

・シゲル

・タジャドル

・ラトラーター

・タトバ

・サゴーズ

Bチーム

・スーパード

・シンジ

・ユウスケ

・カズマ

・タクミ

・ソウジ

・エイジス（リンクの服）

・ヒナ（サウタ）

・ケイスケ

・ハヤト

・ヒロシ

・リョウ

・プトティラ

・シャウタ

・ガタキリバ

・ブラカワニ

士「——Bに強い奴偏りすぎだろオオオ!?」

夏海「でも、ケイスケさんは狙い目ですよ…!」

ケイスケ「orz」

スーパード「ちなみに、外野はオース兄弟チームな。お前らは当てたら帰っていいけど、内野から外野に来た奴は当てても帰るなよ」

プトティラ「わかった!OO」

ラトラーター「え、帰っていいの（家に）?」

スーパード「…ラトラーターは補習……」と」

ラトラーター「ぎゃーっす!」

シャウタ「アホだ…久々に、アホを見た…!」

士「ジャンプボールは俺がやるぜ！」

ケイスケ「……」

士「おい、ケイスケで大丈夫なのか」

ヒロシ「殺る気満々ですし、いいんじゃないですか？」

Aチーム「「殺る気!?!?!」」

オオタチ「ちっ」↑ボール持ちながら

ショウイチ「コイツでボールトス大丈夫なのか!?!」

プトティラ「ぶきゅ」↑オオタチ持ち上げながら

シャウタ「あ、和む」

カズヤ「可愛さ二段構えだ」

アスム（プトティラがやれば早いのでは……）

オオタチ「ちーっ!」↑10mの高さまでボールがポーン

ショウイチ「Σプトティラいなくても問題なかったアアア!」

士「クソッ、こうなったらシマウマの首のリーチを生かして……」

ケイスケ「……ふ、ははは、ははは……!」↑ライドルホイップ取り出し  
全「「え」」

ケイスケ「——もうどうにでもなれよおお!」↑ライドルロング  
ボール移動

士「おーいつ、アレ反則!反則じゃないのか!?!」

アポロガイスト（審判）「……オツケイ!」

ユウスケ「なんでお前が審判してるんだよ!ゴッドショッカー本部  
か、長崎支部に帰れよ!?!」

アポロガイスト「いや、退屈していたのでな……」

ケイスケ「そおい!」↑ボールに踵落とし

ブラカワニ「アウチッ!」↑直撃

プトティラ「パパーン！O□O」

士「おい、誰か取れ！命をかけて取れ！！」

夏海「無理ですよ、高く跳ね上がりましたもん！」

サウタ「ほいっと」↑ウナギ捕縛

全「」「ヒナのほうがずるかった！」「」

サウタ「…サイヘッドスマッシュ！」

シゲル「ひやくめたいたんツ！？」

アポロガイスト「ストロンガー、もとい、紫電シゲル…アウト！」

士「電気カブトムシの死は無駄にしないぜ！」

シゲル「」↑動かない

カズマ「本当に動かないのが怖い！」

士「まずは…連携してドSを潰すぞ！」

タトタジャラトサゴ「」「勝手にやってください」「」

士「おおいッ！？」

ガタキリバ「無理もないだろ…」

士「しょうがない、わざと渡して外野に協力者を増やすか！」

カズマ「うえいつ」↑顔面ばこーん

シンジ「カズマアアア！」

士「ドジるなああああ！！？」

アポロガイスト「顔面はセーフだ」

夏海「じゃあ、着ぐるみの部分は！？」

アポ1「「アウト」」

夏海「orz」

ヒロシ「余談ですけど、マントは？」

アポ1「「セーフ」」

アスム「不公平だあああああ！」

シンジ「つ、か、さ…？」↑背後に雷神サンダース

士「ちよつと待て、シンジ、俺はカズマに当てる気はなかったんだ！つーかお前が怖くてできるか！！」

シヨウイチ「おい破壊者」

シンジ「問答無用ッ！」

士「しゅうまつッ！？」

アポロガイスト「門矢士ことディケイド、アウト！」

士「だが、これで…これでドSを殺れるぜ！翔太郎、弦太朗、シロウ…手伝え！！」

弦太朗「よっしゃ！」

翔太郎「俺パス」

シロウ「同じく」

士「…ええい味方は一人でもいい！覚悟！！」

スーパー1「はっ」

弦太朗「そらっ！」

スーパー1「ほっ」

（5分経過…）

士「くそっ、当たらない…あのドSライダーに当たらないッ！」

スーパー1「赤心少林拳奥義、梅花の型（手を使わないバージョン）！」

ケイスケ「それただの回避だから！梅花違うから！！」↑順応できてきた

シゲル「それでも、何だよあの回避力は！？ドッジボールなのに当てられないって鬼かこれ！」↑生き返った  
ヒロシ「えい！」

ケイスケ「あ、真のスーパー1が取った」

ヒロシ「…スカイドリル（生身バージョン）！」

弦太郎「まぐねつとすていつツ!？」

アポロガイスト「如月弦太郎、アウト！」

翔太郎「これ、一方的過ぎないか!?! とりあえず、せめて一人だけでも…」

ケイスケ「…ライドルボール返し！」

翔太郎「がいあめもりツ!？」

アポロガイスト「半熟卵、アウト！」

士「——だから…ライドルは反則でいいだろオオオ!？」

映司「誰を狙おうかな… って言っても、誰を狙ってもこっちが死ぬし…このメンバー」

カズマ「わくわく」 ↑ ボールを取りたそうな目

映司「…アレは無視しよう。ドジって顔面ヒットかアウトになった日には、シンジさんに殺される」

ショウイチ「つか、殺れる奴いないだろ…!」

映司「だったら…」

映司「唯一の穴！タクミ君覚悟!!」

タクミ「わーっ!？」

謎のアクセルトライアル「…」 ↑ 蹴りでボール返し

映司「うわっ!」 ↑ 回避

ショウイチ「おいなんだ今のアク…ごふうっ!？」

アポロガイスト「芦河ショウイチもとい、アギト…アウト！」

士（…リンクだ）

エイジス（惑うことなき、リンクだ…）

カズヤ（何あれスタンド?）

——キーンコーンカーンコーン♪

スーパー「よし、今日の体験授業はこれで終わりだ！」

士「なんだこれ…拷問すぎるだろ…」

カズヤ「この世界のスーパー1怖い…orz」

スーパー1「ラトラーターは個人補習な」

ラトラーター「うええ…orz」

ケイスケ「やつと脱げる！やつと帰れる！！」

シロウ「結局俺達、ただ突っ立っているだけだったな」

タジャドル「まあ、普段の授業よりはいいかと…」

ガタキリバ「今日は、まだいいほうですよ」

リョウ「どうしてだ？」

ガタキリバ「——授業に遅刻なんてした日には、427周走らされ

…」

タジャドル「話を聞いていない生徒の尻に、バットをねじ込んだり

…」

サゴゾ「時々、赤心少林拳が火を噴きますよ」

シャウタ「本当に…プティラ愛されてるなあってぐらいに、いつもの教え方が鬼ですからね」

ラトラーター「…シャウタも愛されてる方だと思っつて言うか、X先生にいつぱん絞められてるからお前には加減しているっていうか…とにかく、お前への扱いもまともな方だぞ」

スーパー1「……シャウタ以外、全員屋上から吊るされたいか？サ

ンドバッグという錘つきで」

タジャガタラトサゴ」「ぎゃーっす!」「」

シャウタ「...あーあ」

タトバ(っっていうか、V3先生だけじゃなくてスーパー1先生も沈めたんだ...X先生...!)

## Ride007：授業体験！スーパー1編（後書き）

〈次回予告〉

ユウスケ「えー、本日は、趣向を変えまして…」

ワタル「上位3人以外の人達に、ちよつと地獄を…いや、天国を見てもらいます」

弦太朗「天国！？」

シロウ「どちらにしても最悪だろうが…！」

カズヤ「…あれ、鞭なの…？」

ユウスケ「何それ初耳」

ケイスケ「——Wikipediaぐらい見るオオオオオ！！」

映司「…マスクが、Vだったらまだ…なんとか…」

X「大丈夫、ライドル忘れてないから許容範囲」

ショウイチ「おい、これ、1号も許してもらえるんじゃないか？」

1号「…普段なら絶対に許されないレベル…？orz」

Ride008：キターツ！絵心大戦2012その3

## Ride008：キターツ！絵心大戦2012その3

カズマ「『キターツ！絵心大戦2012』はーじまーるよー！！」  
シンジ「本日、絵を描いていただくのは…こちらの8人！」

ケイスケ「…今回は、今回はせめて2位…！」

カズヤ「が、頑張る」

ヒロシ「そうだねー」

1号「あの、どうして私は…いつも…orz」

シゲル「よしっ、ビリにはならない組み合わせだ！」

シロウ「さあ、どうだろうな」

弦太朗「今日こそはビリから抜けるぜ！」

士「——いや、お前無理だろ。一生」

海東「1号もだけどね？」

1号「orz」

弦太朗「何だと！？じゃあお前らも描いてみるよ！」

士「はっ、俺達は描かなくていいんだよ…次のプトティラ戦まではな！」

シゲル「ずりいいい！」

ユウスケ「えー、本日は、趣向を変えまして…」

ワタル「上位3人以外の人達に、ちよつと地獄を…いや、天国を見

てもらいます」

弦太郎「天国!？」

シロウ「どちらにしても最悪だろうが…!」

リョウ「…背後にある、あの棺は何なんだ…?」

ハヤト「拷問で有名な、アイアンメイデンだぜ。中にびっしり棘が敷き詰められていて、その中に人入れんの」

ユウスケ「シス・コムセの技術協力で、このアイアンメイデンはカイゾーグの体すら貫通する威力です」

ワタル「ちなみに、今、この中には鳴滝さんがいますよ」

アスム「あー、通りで誰もいないはずなのに中から血が…」

参加者「「嫌アアアア!?!?」」

映司「まあ、お題は…仮面ライダーXです!」

エイジ「お前ら…今まで散々見てきたんだから、分かるよな…?」

エイジス「今回の判定者は、オーズ兄弟の世界のXだから…変な物描いたらその時点で死ぬぞ」

カズヤ「——心から承知しています…!」

ヒロシ「死ぬ気で頑張ろうね!俺死んでるけど」

ケイスケ「メタやめてくれ!…俺も人のこと言えないけど」

ワタル「僕としては、1位以外全員拷問でいいんですけどねえ」

シゲル「やめてくれえええええ!」

カズマ「それは救いがなさ過ぎない?」

ショウイチ「とりあえず、4〜7位までがアイアンメイデンでよくないか」

アスム「えっ、それだと、8位は?」

ソウジ「シンジ（真の破壊者）」

シヨウイチ「シンジ（終末）」

カズマ「シンジ（サゴーズ）」

ユウスケ「採用」

ワタル「何それ凄くいいです！」

シンジ「……ヲイ」

タクミ（こんな発言しておいて、よく生きていられるよなあ……上3人……）

アスム「そして、何気に（ ）を繋げると文章になる件について」

士「大体分かった。——最下位は終末サゴーズによって存在を破壊……か」

ヒロシ「嫌あああああ！死にたくない、死にたくない！！死んでるけど……！」

ケイスケ「頼む、今殺さないでくれ。今はまだ殺さないでくれ！」

シゲル「ギャグだからって、死なない世界だからって、それだけはあああ！」

シロウ「……………」

リョウ「……」

1号「……頑張ろう、せめて下から2番目を目指そう」

弦太郎「張り切るぜ！」

映司「ヒント欲しい人ー」

弦太郎「……はい」

ユウスケ「結局お前かよ！」

シゲル「もう、お前最下位確定じゃねーか……」

シロウ「普通、あれだけのこと（Ride6参照）を目の前で展開

されれば、覚えているはずだが…？」

1号「いや、私と弦太朗君、その時いなかったぞ…orz」  
士「二人いるなら、仕方がない。ヒントをくれてやるう！」

映司「仮面ライダーXとは、ライドルと言う武器を使って戦う深海  
開発用改造人間カイゾーグです」

1号「ライドル？」

エイジ「ライドルは4つの形態があつて、通常形態のライドルホイ  
ップ・棒状のライドルスティック・ロープ状のライドルロープ・ラ  
イドルスティックを更に長くしたライドルロングポールだ」

ヒロシ「はい」

士「なんだ？」

ヒロシ「…なんで、スティック形態が2つもあるんですか？」

ケイスケ「——なんでだろう…？」

シロウ「確かに…もつと、別のライドルがあつてもいいのに」

シゲル「例えば？」

シロウ「ライドルブレード」

ケイスケ「いや、ホイップが剣だから。…馬上で使う短鞭<sup>ウィップ</sup>だけど、  
フェンシングの剣も合わさったデザインだから！」

カズヤ「……あれ、鞭なの…？」

ユウスケ「何それ初耳」

ケイスケ「——Wikipediaぐらい見るオオオオオ！！」

1号「はい」

カズマ「どーぞ」

1号「…ロングボールの存在する意味は？」

カズマ「物干し竿代わり？」

ケイスケ「んなわけあるかアアア！最大10mまで延伸可能で、ジ

ヤンプの補助や高所を一気に上ったり、相手との間合いを取る為に使うんだよオオオオオ！！」

シゲル「はい」

シヨウイチ「どうした」

シゲル「…なんで昨今のXはライドルスティックが主流なんだ？」

DCD夏、DCD本編、レッツゴー」

シヨウイチ「…面倒くさいから？」

ソウジ「新しくスーツを作る際、スティックしか作らなかった」

ケイスケ「メタすぎるわあああ！本当かどうか知らないけど！！」

弦太郎「はい！」

ユウスケ「はいどうぞ」

弦太郎「——マーカー回路設置による強化後は、パンチなどの力技主流になっていたのは何故なんだ？」

ケイスケ「…そこ疑問に思っことは、お前X見とるやろオオオオオ！！」

カズヤ「ケイスケ落ち着いてえええ！」

ソウジ「自分の絵に集中しような」

シヨウイチ（あいつが俺の絶叫ポジションを受け継いでくれる…！）

↑涙ぐむ

シンジ「そこ、何喜んでる」

リョウ「はい」

シンジ「どうぞ」

リョウ「…逆に、どうしてDCDRWのXはライドルの戦い方が主流なんだ？」

ケイスケ「……8話終わってすぐでその疑問言っなアアア！せめて、せめて14話が15話、もっと言えば17話ぐらいに言ってくれえ

ええええ!!」

カズヤ「あえて応えると、マーキュリー回路による強化がされていないせいですよ!」

ヒロシ「メタ発言を言えば、作者が必殺技を出すのが面倒臭くて簡略化しているだけですよ!」

カズヤ「…どうせなんで、俺も質問」

ワタル「どうぞ?」

カズヤ「…なんでSPIRITSのXは爆発ネタから逃れられない(ソゾンガー、偽スーパー1etc)んですか?」

ケイスケ「…知らねえよ…!」

士「本編で何か、やらかしたんじゃないのか?」

弦太朗「14話でアポロガイストが人間態に戻って、潔く負けを認めて神さんと握手したかと思えば、右腕のアーム爆弾で道連れ自爆を謀ったからじゃないか?」

ケイスケ「—そこまで知っている以上、お前俺よりヘタクソなX描いたらムツコロすぞオオオオ!!」

ヒロシ「Xじゃないけど、個人的な質問」

士「どうした?」

ヒロシ「…なんで原典は二連装銃のアポロショットなのに、DCDRWアポロガイストの装備が、フェンシングで使われるような細身剣なの?」

ケイスケ「…、…アポロガイスト初登場時の参考資料が、手元にあったDCD本だったから」

カズヤ「もっとメタな発言をすると、剣術対決の方が燃えるからと…そっちの方が純粹にカッコいいから。ちなみにアーム爆弾は搭載されていないらしいよ」

リョウ「あと、DCDRWのアポロガイスト〃仮面ライダーX本編のアポロガイスト、と言うわけでもないらしい。それを言い始める

と、4話あたりで話題に出た沖一也もオリジナルと〃である可能性は低いとのことだ」

シゲル「とどのつまり、『あまり細かいこと気にすると、この先の展開についていけなくなるぞ』（特に地獄大使）」

〃  
〃  
〃

士「さて、…そういえばお前ら、Xに対する特徴の質問なかったけど…いいのか…？」

カズヤ「あー、大丈夫。脳裏に焼きついているから」

ヒロシ「あのアイアンクローは忘れられないですよー」

シロウ「むしろ、忘れられたら凄いぞ。あのQB15000大量駆除」

シゲル「それでも増え続けるQBも凄かったけどな…」

ユウスケ「それじゃあ、ゲストのX先生…どうぞ！」

X「こんばんはー」（投稿時間が21時の為）

全「…こんばんはー」

X「さて…月島カズヤ君、後で…個人的に“お話”しようか？」  
カズヤ「はい…orz」

シゲル（…爆発だ）

ケイスケ（爆発のことだな…）

ヒロシ（紛れもなく爆発だね）

シンジ「あ、そういえば、俺質問し忘れてた」

士「お前がかよ！」

タクミ「何なんですか？」

シンジ「…なんでSPIRITSのXは、右腕が？がれたり…捕ま  
って鎖に吊るされたり、洗脳され手味方と戦ったりと、作者の闇の  
部分ド直球なネタをやるんでしょうか」

X「……………さあ」

ケイスケ「それは…神さんに言っても、分からないかと…」

俺に聞かないでくれ（by・ライ街の敬介）

ユウスケ「じゃあ、最初は、シゲル」

シゲル「今適当に決めたな!？」

ユウスケ「基準決めとして役立ってくれ」

シゲル「つまり…人柱だろそれエエエエ!？」

> i 3 4 6 4 1 — 3 2 1 5 <

X「…」↑ちよつとツボった

ケイスケ「あの、大丈夫ですか」

X「ごめん、ちよつと面白かった」

シゲル「落ち込んでいいか!？」

X「いや、だって、腕とマフラーで『X』やってるって新しいなあ  
と…!」

カズマ「この先生意外と、弦太郎の絵を許してくれるんじゃない？」

弦太朗「Σ普通なら許されない前提!？」

タクミ「今度は、誰にしよう…」

士「ここは、ヒロシだ。コイツは何かをやらかしている!」

ヒロシ「ええつ、失礼だな。ちゃんとしてるよ!」

> i 3 4 6 4 2 — 3 2 1 5 <

ユウスケ「ちゃんと…してる、のか…?」

士「何かが惜しい…何かが」

映司「…マスクが、Vだったらまだ…なんとか…」

X「大丈夫、ライドル忘れてないから許容範囲」

シヨウイチ「おい、これ、1号も許してもらえるんじゃないか?」

1号「|| 普段なら絶対に許されないレベル…? or z」

シンジ「じゃあ、シロウさん」

シロウ「任せろ、自信作だ」

> i 3 4 6 4 3 — 3 2 1 5 <

全「…あー、大体合ってる…」

シンジ「Vが後1つ足りないけど、大体これでいいような…」↑  
人と確かめながら  
本人

X「ライドルホイツ描いてくれる人少ないんだよなあ、ロープや

ロングポールの方がもっと酷いけど」

ヒロシ「どのくらい酷いんですか?」

X「スティックの比率がバカ高い」

ソウジ「うーん、Xキックをする時に使われているのが大きいから  
なあ…」

アスム「では、リヨウさん！」

リヨウ「ああ。分かった」

> i 3 4 6 4 4 — 3 2 1 5 <

士「…『まだつづく↓』って何だあああ!？」

リヨウ「ライドルロングポールだから」

ユウスケ「描き切れなかったとかじゃなくて!？」

カズマ「あれ、今回ホントまでも…」

シンジ「だよなあ…？」

タクミ「相当、アイアンクローの衝撃が凄まじいんでしょうね」

シヨウイチ「ならば、ここでケイスケだな」

ケイスケ「…ツツコミに集中しすぎて、全然こつちに集中できなかった…orz」

ヒロシ「ドンマイ」

> i 3 4 6 4 6 — 3 2 1 5 <

カズマ「あ、上手い!何となく上手い!!」

シロウ「…」

シゲル「おい、どうした？」

シロウ「なんだろう、ケイスケ、——お前の絵は無個性だ」

ケイスケ「↑表・情・氷・結

カズヤ「ケイスケエエエ!」

シロウ「いや、だってそうだろう、ポーズが棒立ちすぎて個性が」

ケイスケ「…うわあああああ…!そこ、凄まじく気にしていたのに…4番目に触れられて欲しくないほど、気にしていたのにイイイ…!」

シンジ「ドンマイ…」

ヒロシ「3番目は？」

ケイスケ「豚肉アレルギー」

カズヤ「2番目は？」

ケイスケ「…親父関係（ネタバレなので明かせません）」

士「じゃあ、1位は」

ヒロシ「あ、それ知ってますよ。確かケイスケってカナ…」

ケイスケ「——もおおおーいいだろおおー！？」

士「おい、どうする。カズヤが先か…ビリ候補が先か！」

タクミ「それによって、X先生の怒りが変わりますよ…！」

シヨウイチ「弦太朗↓カズヤ↓1号の順で行くぞ、その方が良さそうだ」

ソウジ「では、弦太朗君。……頑張つて逝こうか」

弦太朗「よっしゃ！タイマン張らせて貰うぜ！！」

> i 3 4 6 4 7 — 3 2 1 5 <

ケイスケ「……メタグロスじゃねえええかああああー！！！」

X「……」↑頭痛を感じた

カズマ「メタグロエックス（X）…！」

シンジ「上手いこと言つたつもりか！」

X「……」

士「おい、一気に不機嫌になつたぞ…！」

シンジ「流石に、弦太朗はインパクトがでかつたか…」

カズマ「カズヤの絵で回復できるかな？」

ソウジ「できなかつたら、シヨウイチも罰ゲームだな」

シヨウイチ「やめえええい！」

> i 3 4 6 4 8 — 3 2 1 5 <

全「「上手い！」」

ワタル「あ、ケイスケさんが駄目な理由分かりました…紙の大きさに対して、絵が小さいんですよ！」

シロウ「それは…インパクトが残らなくて当然だな」

ケイスケ「orz」

ヒロシ「やめたげてよぉ！」

士「このポーズ、どこかで見たことがあるような…」

ソウジ「…ガンバライド01弾のXのカード？」

シンジ「いや、違う、『仮面ライダーディケイド RIDER T

HE DECADE』に収録されている、59ページ目のXだ！」

カズマ「誰もそんな通な場所分らないよシンジ！」

カズヤ「所で、最後、本当に1号さんでよかったんですか？」

カズマ「今更」

シンジ「シヨウイチさんの責任だし、大丈夫」

1号「orz」

>i34649—3215<

ユウスケ「なんか………酷い」

X「…」↑指バキボキ

カズマ「あーあ」

1号「もう好きにしてくれ…orz」

〃  
〃  
〃

ワタル「それでは、X先生…上位3名をお答えください！」

X「そうだな…まず一人目は、月島カズヤ君…だなあ……」  
カズヤ「やった！」

士「二人目は？」

X「仁ケイスケ君。パーツが大体合ってる」

ケイスケ「4位以下を免れればそれでいい…！もう、それ以上は望まない…！！orz」↑号泣

ユウスケ「それじゃあ、3位は？」

全「…」

X「——紫電シゲル君で」

ヒロシ「えええええええー！？」

ハヤト「何故だ！ツボに入っただからか！？」

X「それもあるけど、…足のライン描いてくれているのが、彼だけだったから…腕まであつたら、言うことないんだけど」

弦太郎「そんな細かいところが判断基準なのかー！？」

X「でも、ヒロシ君はポーズもしっかりしているし、ライドルを抜いていない時の状態がしっかりしてあるからなあ…リョウ君はロングポール描いてくれたし、シロウ君はホイップ…」

シンジ「えっ、そこ、判断基準に入れちゃうんですか？」

X「——もう、いつそのこと、月島ヒロシ君・風祭シロウ君・時雨リョウ君も…同率3位で」

ヒロシ「やったー！」

シロウ「分かってくれる人でよかった…」

リヨウ「？そうになると、残りの二人は」

X「…弦太朗君7位、1号さん最下位」

全「「ええええええー！？」」「」

弦太朗「初めての7位キターッ！？」

カズマ「いや、結局罰ゲームだからね？」

映司「えっ、何ですか！？」

エイジス「正直…終わってるのは、弦太朗の絵だと思っただが」

X「例えメタグロエックスでも…ポーズはしっかりしていた、から…」↑実はメタグロエックスがツボッた

カズマ「メタグロエックス気に入っちゃったんだ…」

シヨウイチ「むしろそれ、カズマの功績だろ」

ソウジ「では、最下位はどこが悪かったと？」

X「——ロープかホイップが分からないほど、ライドルがへによい」

1号「よりもよって、ライドルの差…！orz」

X「ライドルを馬鹿にする者はライドルに泣くぞ…？」

ワタル「それでは、弦太朗さんはアイアンメイデンに入ってください  
ーい」

弦太朗「ぎゃあああああー！？ちょ、これ、ちょおおー！」

カズマ「大丈夫、弦太朗！」

シヨウイチ「あつちに比べれば…」

ソウジ「まだ軽い！」

サゴーズ（終末）「…待たんかアアアア！」↑絶対サゴーズじゃ

ないレベルの速さ

X「……」↑全力ダッシュ

1号「ぎゃあああああー!?!」

アスム「1号さんは……『ライドルがへによい』と言う理由で、圧倒的破壊力を誇る真のラスボス・終末サゴーズだけでなく、『オーズ兄弟の世界』最強とまで言われるX先生にまで絞められようとしているんですよ?」

ワタル「あの拷問と、アイアンメイデン。どっちがいいです?」

弦太郎「……アイアンメイデン」

Ride008：キターッ！絵心大戦2012その3（後書き）

（次回予告）

士「さあ、始まるぜ！仮面ライダークイズ！！」

夏海「全問正解、出来るといいですね！」

V3「…答えられるか！」

2号「そうだそうだ！」

アマゾン「グルル…！」

スカイライダー「リコール、出題者全員リコール！」

スーパー1「ついでに腐敗政治家もリコール！」

X「ZZZ…」

ショウイチ「興味がなくなつて寝始めたアアア！？」

ストロンガー「しょうがねえだろ…あんな意地悪問題、やる気も失せるって…」

スカイライダー「総辞職しましょうよ、ライダーの意味でも」

タクミ「何それ胸が痛い！」

Ride009：ライダークイズ！全問正解せよ

## Ride009：ライダークイズ！全問正解せよ

士「さあ、始まるぜ！仮面ライダークイズ！！」

夏海「全問正解、出来るといいですね！」

1号「——質問」

翔太郎「お、どうした？」

1号「私はいいんだが、」

2号以下省略「「「なんで俺達変身状態なわけ？」」「」

アマゾン「ガウ」

カズマ「いい質問だね、感動的だね、でも無意味だ！」

X「おい！」

シンジ「まあ、簡単に言うと…毎回1号ばかり顔見せできないのは可哀想なので、いつそ皆変身状態でクイズしてやろうかと」

V3「何故そうなる！」

士「まあ、お前達は仮面ライダーになるはずじゃなかったのに、なっってしまった不幸な奴らだ」

ライダーマン「まあ、否定は出来ないが」

ユウスケ「そこで！仮面ライダーのことをもっと知るために…」  
アスム「仮面ライダーのクイズをすることにしました！」

ワタル「残念なことに、罰ゲームはないらしいので気軽に参加して

くださいね！」

スーパー1「Σ『残念なことに』って!？」

ソウジ「ちなみに、互いに呼び合う時は『1号』とか『ZX』とか、ライダー名でな」

ストロンガー「何でだよ！1号とXに関しては抵抗ないけど!！」

2号「もつと言えば、アマゾンもな！」

アマゾン「アマゾンよく分らない。ケイ…」

スカイライダー「駄目だよアマゾン！ライダー名で呼ばないと!！」  
アマゾン「…むうう」

タクミ「どうでもいいので第1問！」

昭和リイマジ「…どうでもって!！」

タクミ「【仮面ライダーSPIRITS】現時点（2012年12月号）で、変身出来ないのは？その理由も詳しくお答えください！」

1号「何だその問題はー!？」

スカイライダー「え、変身出来ないのって、誰だったっけ」

X「沖一也さん…は確実だよな」

ストロンガー「ああ…確か、そうだった」

アマゾン「？」

ZX「うーむ、理由…理由か…」

スーパー1「確か、バダンの光の龍を見て改造された部分と脳の部分  
が断裂状態…だったっけ？」

V3「簡潔に纏めろ」

ストロンガー「早い話が、バダンシンジROOMに掛かって変身出来

ない？」

スカイライダー「え、でも、何でスーパー1だけそうなったんてし  
たっけ？」

2号「知るか！」

1号「確か、ZXとかXもいなかったか…？」

アマゾン「アマゾン分らない…」

ライダーマン「——うーむ、すまない、その漫画途中までしか読ん  
でいないんだ…」

X「どの辺までっすか」

ライダーマン「ZXが…V3やスーパー1などと対峙している所、  
だったような」

スーパー1「あー、確かもつと先ですよ…今回のクイズ」

ストロンガー「思い出した！確か、光の龍を見て死んだ赤心寺の人  
を走馬灯のように思い出していた…？」

スーパー1「そうだったっけ！？」

スカイライダー「と言うより、スーパー1がバダンシンドロームに  
掛かった根本的な原因をまずは」

X「——なあ、」

V3「どうした」

X「……確か、V3も変身出来ないんじゃないかったっけ？」

2号「……だったっけ？俺、15巻までしか読んでねーわ」

スカイライダー「立ち読みだけど、飛び飛びでないんだよねえ。行  
きつけのBOO。OF。」

V3「何で変身出来ないんだ？」

1号「さあ…私は、コンビニの奴しか…」

X「それ1巻から3巻までじゃないですか！戦力外多すぎだろ！！  
……だー、全巻（立ち読みで）読んでるけど理由までは思い出せな  
い…」

V3「お前、どのぐらいのペースで1巻読んでるんだ？」

X「…1巻に付き10分で読破した、気がする」

ストロンガー「それ駄目だろある意味！買えよう！！」

スーパードット「えっと、確か、ベルト壊れたんじゃないっけ？」

X「そんな感じ」

1号「どうして壊れたんだ…？」

スーパードット「さあ、火柱キックが原因だっけ？」

X「え、確か、巨大な骸骨のせいでベルト壊れたんじゃないっけ…」

V3「ところで、ストロンガーは？」

スカイライダー「アレは確か、一時的ですよ。今はもう出来るはずです」

X「スパークがどうのこうのでーたらこーたら、だったような」

2号「Xお前適当すぎるだろ」

ストロンガー「え、だったら、Xは？」

X「いやいや、変身できてる。変身できてるから！」

スカイライダー「そしてゾゾンガーにまた爆発ネタを」

X「絞めるぞお前はアアア！」

ストロンガー「え、でも、なんか変身できなかった瞬間なかったっけ？」

ZX「そうだったのか…？」

X「何故俺を見るんだ！」

2号「いや、マーキュリー回路が作動しなくて、その後セタップしただろ。ただしその後でマーキュリー回路は平然と仕事していたという」

ストロンガー「何だよマーキュリー仕事しろよ！」

スカイライダー「所で、何でスーパードットだけバダンシンドロームに掛かったんだっけ？」

スーパードット「なんで今蒸し返すかな…？」

X「あー、簡潔に説明すると、沖さんはそもそも改造人間になった

理由がポジティブなものだけど、ネガ要素を乗り越えていないからこそ……」

2号「なんでXはバダンシンドロームに掛からないんだっけ？」

X「いや、だから、Xっていうか神敬介さんは父が死に婚約者が死にその妹が死にと、そのネガティブ要素を乗り越えて」

1号「自ら志願したライダーはバダンシンドロームに掛かるのか？」

X「そうじゃなくてV3やストロンガーは……」

ユウスケ「……なんで皆、理由答えさせようって思ったんだよ。收拾つかなくなってきたぞ」

士「まさか、SPIRITS談義をし始めるとは……」

シヨウイチ「いや、予測できたよな。予測できたよな!？」

タクミ「答え、用意できてます?」

カズマ「え、『答えは……自分で読んで調べてね』って言う予定だったから……」

シンジ「冷静に考えると、今それを言ったらここにいる全員殺されるよな。特にXに」

翔太郎（つか、Xは1話何分のペースで読んでいたんだよ……!）

士「——お前ら、1問目はもういい!2問目だ!……」

昭和リイマジ「……煩いちょっと黙ってる!」「」

アマゾン「今いいところ!」

士「orz」

2号「……で、ストロンガーとV3はバダンシンドロームに掛からないことは分かったけど、じゃあ何でスーパー1は掛かったんだ?」

X「いや、ですからスーパー1は……!」

スカイライダー「噛み砕いて言うと、メンタル低かった」

スーパー1「何それ俺のこと言ってる!?!」

この後、30分間は無法地帯となりました

士「…もう、次の問題出していいか…？orz」

昭和リイマジ「…あ、どーぞどーぞ」

士「…たく…第2問だ！——今度は、【仮面ライダーディケイド&スマブラ もう一つのコア大戦】から出題！！」

スカイライダー「何それ反則！」

夏海「ずばり、私が笑いのツボをやった回数は何回でしょう！」

V3「…答えられるか！」

2号「そうだそうだ！」

アマゾン「グルル…！」

スカイライダー「リコール、出題者全員リコール！」

スーパード「ついでに腐敗政治家もリコール！」

夏海「——ちよつとは考えてくださいよオオオ…！orz」

ショウイチ「しかも、何気に凄じいこと言ってるし」

ZX「…笑いのツボ自体、知らないんだが」↑加入する頃には夏海  
の存在なんてほぼフェードアウト状態

ストロンガー「確か、バイク運転していた奴にかまして事故らせた  
アレだろ」

X「今考えても酷いよな、アレ」

スーパード「電柱の賠償金額って、いくらでした？払いませんけど」

ワタル「じゃあ、第3問です！」

昭和リイマジ「…えー…」

アスム「同じくコア大戦から出題します。……正直、シンジさんが

龍騎になった回数は何回でしょう!」

ストロンガー「今更数え切れるかア!」

ライダーマン「それが大正解だと思う!」

1号「というか、当てさせる気がないだろう!」

平成リイマジ「うん」「」

V3「おい!」

2号「サゴーズになった回数なら数えられなくもないんだけどな。

427回だっけ?」

スカイライダー「死にな?」

1号「いいや、4649回だ」

スーパー1「夜六死苦?」

V3「4219回」

X「死に行く?」

ライダーマン「だったら、8181回」

アマゾン「バイバイ?」

ストロンガー「よし、だったら俺は、5963回だ!」

ZX「ご苦労さん?」

スカイライダー「42回とか」

1号「死人?」

スーパー1「あー、俺は、91871回!」

1号「悔いはない?」

X「じゃあ、47718143回」

V3「死なないエイジス」上手い!座布団2枚」

アマゾン「5392!」

ライダーマン「ゴミ屑」えげつないから、普段はそんな事言わないようにな」

ZX「それなら、410回!」

ストロンガー「心中?」

シンジ「——お前ら凄まじく好き勝手な回数言つなアアア!3回

だ3回イイ!!」

エイジス「そしてXお前エエエエ!!」

3 ↓ “ス” リー ↓ す

V3「言うわけで座布団寄越せ」

ユウスケ「本当に進呈するのかよ!!」

アスム「えーと、もう、第4問行きましょう」

シンジ「コア大戦・ギャグNOVEL大戦SUMMER・21の主役とコアメダル・リマジオーズに至るまでの、総てのオーズの亜種を答えなさい!!」

ライダーマン「何イイ!?」

X「ZZZ...」

ショウイチ「興味がなくなつて寝始めたアア!?」

ストロンガー「しょうがねえだろ... あんな意地悪問題、やる気も失せるって...」

スカイライダー「総辞職しましょうよ、ライダーの意味でも」

タクミ「何それ胸が痛い!!」 ↑ 中の人が芸能界引退

ユウスケ「お願い、本当に答えて! 頼むから!!」

スカイライダー「って言つても、分からないし」

スーパー1「って言うか、1作品忘れてるのはわざと?」

V3「むしろ、ライダータウンどうした」

士「... しょうがねえだろオオオ! 作者がカウント取つてる亜種は、その4作品ぐらいなんだからああああ!!」

ストロンガー「これって、タトバ足していいのかよ」

スカイライダー「タトバってコンボじゃないの？」

アマゾン「歌、流れるの、コンボ！」

ライダーマン「よく出来ました」

2号「おい起きろ、座布団枕にしてる奴」

X「――凄まじく面倒くせえ」↑寝起き

ライダーマン「コラ。素顔見えないからって、面倒臭<sup>うづい</sup>がらない内面悪くしない」

カズマ（きつと物凄く嫌な顔してるんだね）

ショウイチ（正直…俺だっしててるぞ、この状況だと…）

X「えーと、順番に…シャジャドル・シャゴリーター・シャジャタ・シャキリタ・シャキリーター・シャジャーター・ガタウタ・ガタウター・ガタゴリーター・ガタゴリタ・ラゴリドル・ラウバ・サゴリドル・シャゴリバ・ガタキリタ・シャトラーター・ガタジャーター・ラトラゾ・タトバ・タカゴリバ・タカキリーター・タカウター・タカゴリゾ・ガタウバ・シャウーター」

ユウスケ「結局タトバを亜種に入れた！」

士「まあ、正か…」

X「スピノフ大戦ではサウタ、DCDRWでは（42話執筆段階で）ラゴリゾ・タカトラゾ・ガタトラドル・ラキリゾ・タカジャゾ・サゴリバ・サトラドル・タカウタ…ライ街では」

ソウジ「ストップ、ストップ！」

ショウイチ「そこまで答えなくていい！答えなくていいー！！」

X「お前らが答えろって言ったんだろ！」

カズマ「そこまで答えろとは言ってないよ」

X「俺の努力返せ！」

スカイライダー「そうだそうだー」

スーパー1「ついでにディケイドライダー、そろそろシンジさんに渡したら？」

V3「あの妖怪の方が絶対強いぞ」

士「…俺も薄々感じていることを言うな！orz」  
ワタル「感じてるんですか！」

夏海「第5問です！」

スカイライダー「まだやるんですか」

夏海「やりますよ！そういう企画ですから！！」

2号「正直、企画倒れなんだが」

海東「君達のせいだからね！？」

1号「いや、君達がグダグダなせいだからな！？」

アスム「それ言い出したら、グダグダなのはあなた達って言うか作者の」

V3「どうでもいいから、さっさとやってさっさと帰るぞ」

士「遂には適当にやりだしたぞこいつ！」

シンジ「今度は【どたばた！オーズ兄弟】からの出題！！」

スーパー1「……X先生の制裁の上限は、100段階中の100段階目まで！」

スカイライダー「X先生がオーズ一家に送った米の銘柄は、【かざみこまち】！」

X「シャウタ達の通う高校の名前は、本郷町立一文字高校！」

V3「ディケイド一家の経営する店の名前は、【破壊者精肉店】！」

ストロンガー「ギャグNOVEL大戦において、トマトを当てられたのはスーパー1先生とX先生（ただし後者に関しては頭にトマトが刺さっていた）！」

ライダーマン「同じくギャグNOVEL大戦において、ヒナくんと最初に邂逅した本郷二丁目の住人はスーパー1先生・スカイライダー先生・ライダーマン先生！V3先生は後からやってきたので除外

とするー!!」

アマゾン「トライドベンダーの名前は、トライドと…ベンちゃん!」  
1号「タトバの通う中学の校長は、オルタナティブ・ゼロ!」

2号「応援合戦の後のパフォーマンズで、プトティラの歌った曲名は「プトプトげんきだもん!」」

ZX「…教師・生徒対抗二人三脚で1位を取ったのは、V3先生とプトティラ…逆にビリだったのは、シャウタとX先生(理由:不幸と不憫の相乗効果)!」

シンジ「——先手を打つな先手をオオオ!」

カズマ「皆なんでオーズ兄弟はノリノリなの?」

ショウイチ「多分、こいつらにオーズ兄弟の問題出したら総て答えられるぞ…」

士「だったら、この問題だ!」

ストロンガー「いや、答えられる問題出せよ!」

士「……一昨日(11/11)打ち切られたオーズ兄弟の投票結果、好きなコンビで上位となった3つの組み合わせを」

V3「龍騎&リュウガ!」

ストロンガー「ペガサス&シャウタ!」

1号「タジャドル&シャウタ!」

士「…すぐに答えるなアアア!」

アスム「では、先生達の年齢を高い順から」

X「1号(46歳)>歌舞鬼(36歳)>ZX(35歳)>V3」

響鬼(33歳)>バイオリダー(30歳)>スーパー1(29歳)

>スカイライダーⅡX(28歳)>サイガⅡイクサⅡ威吹鬼(27

歳)>ライダーマンⅡアメイジング(26歳)>デルタ(23歳)」

ワタル「なんでそんな裏事情を答えられるんですかアアア!」

ZX「軽く衝撃的なのは、ZX先生の歳なんだが」

V3「ああ、あれは…確かに」

ストロンガー「つか、2号は？」

スカイライダー「タジャドルの大学の教授で、37歳だったはずだよ」

ライダーマン「出ていないから分からないな…」

士「…俺、軽く、X先生の歳に驚いたんだが」

ユウスケ「ライダーマン先生のほうが年下だったのか…V3先生と7歳差だったのかよ…」

ソウジ「…ところで、誰がどの部の顧問とか、そういうのは…」

X「スーパー1先生が陸上、V3先生がバスケット、ライダーマン先生がサッカー、スカイライダー先生が弓道、アメイジング先生が剣道、歌舞鬼先生がダンス、響鬼先生が柔道、バイオライダー先生が水泳、サイガ先生が吹奏楽、イクサ先生が書道」

ワタル「なんでそんな事まで分かるんですか…」

カズマ「って言うか、歌舞鬼先生とイクサ先生絶対逆だと思うの」

ショウイチ「…Xは？」

X「…それ、29話的な意味で言っているのか…？」

全「…ごめん言わなくていい！」「」

}}}

V3「よし、文字数もノルマの5500越えだし、帰るか」  
昭和リイマジ「「「おー」」」  
士「…今度は、まともなクイズ作るか…orz」  
映司「今更だよね、それ」

## Ride009：ライダークイズ！全問正解せよ（後書き）

〈次回予告〉

ソウジ「【キターッ！絵心大戦2012】…始まるぞー」

ショウイチ「お前がコールかよ、ある意味新しいな」

ソウジ「何だかんだで…俺、前にやった時1位を取れなかったからな…」

ショウイチ「ああ、俺もだ、…何故なんだろうな」

ユウスケ「ずっと気になっていましたけど、リョウさん、オーズ兄弟の読者ですよ！しかも狂信的な…！」

リョウ「そうか？」

ユウスケ「じゃなければ、こんな、可愛さ振りまくプティラなんて…描けるはずがない！」

ケイスケ「——だからそれプティラちがーうッ！」

カズヤ「プティラじゃない、むしろ、恐竜グリードですらない！」  
ヒロシ「自信あったのに！」

士「いつかのラッパを持った下半身ラクダのミジュマルとか、ラブカスとラプラスとライチュウのキメラとか思い出すなあ…」

ワタル「士さん、本気で殺しますよ？」

R  
i  
d  
e  
0  
1  
0  
:  
キ  
タ  
ー  
ツ  
!  
絵  
心  
大  
戦  
2  
0  
1  
2  
そ  
の  
4

## Ride010：キターツ！絵心大戦2012その4

ソウジ「キターツ！絵心大戦2012」…始まるぞー」

シヨウイチ「お前がコールかよ、ある意味新しいな」

ソウジ「何だかんだで…俺、前にやった時1位を取れなかったからな…」

シヨウイチ「ああ、俺もだ、…何故なんだろうな」

士「それは、こんなウヴァとか」

> i 2 4 4 0 9 — 3 2 1 5 <

士「こんなブラカワニとか」

> i 2 4 5 8 7 — 3 2 1 5 <

士「——描いてきていたからだろうがアアア！」

シヨウイチ「そうだったか？」

ソウジ「忘れたなあ」

士「もうお前ら、次回の対決で描け！そして恥を晒してこい！！」

ソウジ「いやいや、人に言うなら自分もやろう。な？」

シヨウイチ「そうだぞ！」

ヒロシ「なんか、あつちで勝手に盛り上がってるね」

カズヤ「そうだな…」

ケイスケ「って言うか、この絵心大戦…ハヤトさんがチートなのは分かったけど、それ以外だと誰が強いんだ？」

ユリコ「さあ…私、2回目だし」

シロウ「…」

リョウ「どうなんだろうな」

1号「どうせ今日も下から2番目は確定なんだろう、そうなんだろうorz」

弦太郎「よっしゃ！今日も頑張るぜ！！」

ユウスケ「確実に出れば1位だったのは、映司さんだったよ」

ハヤト「へー、どんな感じだ？」

カズマ「これが映司のパパン」

> i 2 4 5 7 6 — 3 2 1 5 <

参加者達「「「上手うまいッ！」「」」

映司「カズマはピンとキリの差が激しいんだよね。ちなみにこっちはピンのシャウタ」

> i 2 4 4 4 3 — 3 2 1 5 <

ケイスケ「普通に上手いし…これぐらい描けないと駄目なのか…！orz」

エイジス「……ケイスケも普通に上手い方だろ…スカイライダーとか、Xとか」

カズマ「今回のお題は、プトティラコンボ！」

カズヤ「なにそれぷーちゃんが評価下すの！？」

映司「いや、俺達トリプルエイジです」

エイジ「ヒオウティンコンボです」

エイジス「パンツと怪力と寿命全うしたい人間だ」

ヒロシ「…なんだあ…」

リョウ「……」

士「なんでそんなに残念そうなんだよ！」

シロウ「…スカイライダー、Xと来れば…プティラを期待して当然だろう」

ケイスケ「だよなあ」

1号「あの子だったら、どんなにヘタでも許してくれる…かもしれない」

弦太朗「むしろ癒されたい」

ユウスケ「いや、無理でしょ…最後二人」

シャウタ「シャシャシャウター」↑机からにゅっ

プティラ「シャシャシャウターO O」↑机から（ry

シンジ「Σ何か出てきたー！」

ガタキリバ「ごめん、俺達も遊びに来た」

ラトラーター「遊びに来ちゃいました」

タジャドル「ミイラ取りがミイラになりました」

サゴーズ「とりあえず、栄次郎さんに水戸黄門のDVD返しに来ました」

タトバ「とりあえず、出番が欲しくて来ました」

ブラカワニ「暇だから来ました」

トライド『ガオン（訳：ペットだしついてきました）』

映司「うーん、どうしよう。……今回は、シャウタに評価出してもらうことにする？プティラに一番懐かれてるし」

プティラ「プトもやるープトもー」

エイジ「——よし！だったら、今回は【まともなプティラ賞】・

【シャウタと俺が選んだプティラ賞】・【プティラが選んだで賞】の3つの救済措置を作ってやろう！！」

エイジス「プティラ来てテンション高いな、王環」

ヒロシ「テンションスカイハイ？」

ケイスケ（2番目、明らかにオーズ兄弟基準枠賞だよな…ああ、これリョウさん抜けたな絶対）

ヒロシ「っていうか、今答え見えてますけど…」

全「」「あ」「」

ソウジ「ハイパークロックアップ」

ハイクロで時間が撒き戻って記憶リセットされました

ちなみに、ヒオウティンコンボとスタンバイシャシャシャウターしてたオーズ一家にはソウジが説明済み

士「さて、もしかしてとは思うが弦太郎」

弦太郎「——まったく分かりません！（ドヤアッ」

士「やっぱりかよ！お前今日も期待できないな！！」

カズマ「今日の罰ゲームどうする？」

シンジ「俺が終末を与えるのもなんだし、春沢さんのQB顔負けの精神崩壊確実のお言葉を聞くのは？」

ソウジ「それなら、DSと名高いスーパー1は…」

シヨウイチ「そこまで言ったら、X呼べX」

春沢のみ採用しました

ユウスケ「一応説明すると、プテラ・トリケラ・ティラノのコンボなんだ」

ヒロシ「え？トリケラって何??」

カズヤ「トロザウルスならいるけど…」

カズマ「へ？」

士「大体分かった。…【ライダーのいない世界】じゃ、トリケラは存在せずにトロザウルスと伝えられている世界なのか」

シヨウイチ「なんかここまで来ると、トロザウルスにしそうな奴らがいるから…トリケラぐらいは資料を見せるか？」

ソウジ「そうだな。ついでに、プテラとティラノも」

シロウ「…質問」

シンジ「どうしたんですか？」

シロウ「何で今回はシゲル抜きなんだ？」

シンジ「そんな疑問捨て去れ」

リョウ「はい」

ユウスケ「どうぞ」

リョウ「可愛いプティラはありますか」

ユウスケ「ありにしますから、さっさと描いてください」

ユリコ「あー」

カズマ「どしたの？」

ユリコ「タジャドルを踏みつけにするプティラを描きたいんで、タジャドルぐらいは見てもいいですか？」

士「なんでどいつもコイツも、タジャドルの扱いがアレなんだよ！」

シヨウイチ「そして、リイマジ昭和は何で発想がオーズ兄弟に行き着くんだ！」

~~~~~

士「——終了！」

ケイスケ「…とりあえず頑張った、俺。これで外れたら……首吊り自殺する」

カズヤ「ケイスケそれやめて！」

ソウジ「今回は、【ヒオウティン賞】【オーズ兄弟賞】【ぷーちゃん賞】の3つを救済措置として置くぞ」

ヒオウティンコンボ「「おー」「」」

オーズ一家「「真面目にやらせてもらいます」「」」

プトティラ「皆のプト見せてね！○○」

カズヤ「何これプレッシャー！」

ヒロシ「地味にプトティラがプレッシャー過ぎる」

士「じゃあ…今回は趣向を変えて、1号から逝くか」

1号「えええ…orz」

>i35035—3215<

シャウタ「——なんつじゃこりゃあああああー！」

ラトラーター「プトティラ違う！これ、王環さん、むしろ王環さん！」

エイジ「俺もこんなじゃねーよ！」

1号「いや、だって今回まともなヒントが0で…！orz」

士「さ、次はユリコだ」

ユリコ「何でそんなに適当なのよ！」

ソウジ「彼氏がない分の働きを、見せてもらおう！」

ユリコ「か、彼氏って…そんな人いないわよーッ!？」

> i 3 5 0 3 6 — 3 2 1 5 <

タジャドル「俺エエエエ！」

プトティラ「タジャドル殺ったね」OwO「

カズヤ「怖いよぷーちゃん！」

ヒロシ「そんなぷーちゃんが好きです」

ケイスケ「『ぷーちゃん』言っな！」

士「さて…今度はどうする？」

リヨウ「わくわく」

ユウスケ「——スタンバイしている人がいるんだけど」

シンジ「そうですね…じゃあ、リヨウさんお願いします」

リヨウ「任せてくれ」

> i 3 5 0 3 7 — 3 2 1 5 <

シヨウイチ「オーズ兄弟としては正解だー!？」

ユウスケ「ずっと気になっていましたけど、リヨウさん、オーズ兄弟の読者ですよね！しかも狂信的な!!」

リヨウ「そうか？」

ユウスケ「じゃなければ、こんな、可愛さ振りまくプトティラなんて…描けるはずがない！」

士「そして、あんなに怖いドSを描けるはずがない！」

ヒロシ「スイカを持ったスカイライダー先生なんて…」

ケイスケ「ライドルロングポールを持ったX先生……あれ？なんだろう、何か違和感があるぞX先生」

描いた時期がアイアンクロー制裁発覚前だからです

ソウジ「では、今度は…カズヤ君だ!」

士「ここで安定のカズヤを!？」

カズヤ「うう…ごめんなさい、今日は酷めです…orz」

> i 3 5 0 3 8 — 3 2 1 5 <

士「…」

ショウイチ「お前さ…カズヤ」

シンジ「もしかして、…カズマと同じ…ピンキリだったりするの?」

カズヤ「…ハイ…orz」

ソウジ「ピンキリなら仕方がない」

シンジ「ここらで、弦太朗地獄に落としておく？」

弦太朗「Σ地獄落とし!？」

士「そうだな。そしてシャウタとプトティラと王環と一部読者を敵に回すがいい」

> i 3 5 0 3 9 — 3 2 1 5 <

全「…お前Xの時間が一番まともなんじゃねえかああああ!!?」  
「」

シャウタ「しかも、これも王環さんだろおお!」

弦太朗「そんなこと言われたって!」

カズヤ（X先生…あなたが下から2番目の評価を下した弦太朗は、あなたの回が一番上手かったです）

ヒロシ（むしろ、それに至るまでが最悪すぎました）

ケイスケ（次回のフォーゼが期待できません）

シヨウイチ「どうする？ ケイスケ・シロウ・ヒロシ…誰に転んでも最悪だぞ（ケイスケ以外）」

士「いや、これ以上酷いのではないと信じたい」

カズマ「じゃあ、ヒロシで！」

ヒロシ「いいですよ！」

> i 3 5 0 4 0 — 3 2 1 5 <

ケイスケ「——だからそれプティラちがーうッ！」

カズヤ「プティラじゃない、むしろ、恐竜グリードですらない！」

ヒロシ「自信あったのに！」

士「いつかのラッパを持った下半身ラクダのミジュマルとか、ラブカスとラプラスとライチュウのキメラとか思い出すなあ…」

ワタル「士さん、本気で殺しますよ？」

タジャドル「というか、お前の自信は何処から来るんだよ！」

士「…もうここは、シロウ行って…ケイスケで挽回する流れにしよう」

シロウ「そのケイスケが酷かったら？」

ケイスケ「orz」

カズヤ「ケイスケ頑張って！」

ヒロシ「今はまだ生きて、俺のためにも！」

リョウ「仁さん、死ぬな！」

ユリコ「…そんなに自信があるって事は、上手いんですか？」

シロウ「ああ」

> i 3 5 0 4 1 — 3 2 1 5 <

シンジ「——だから…王環さんだよこれエエエ！」

映司「むしろ、何で俺とか真木さんの恐竜グリード来ないの！？」

カズマ「まあ上手いけどさ！ ギルとしてなら…！」

エイジ「お願い、1号や弦太朗は許せたが…これは似すぎて個人的に許せない！忌々しすぎて！！orz」↑実は自分のグリード姿嫌いだ  
エイジ「まだカッコいい方だぞお前は！」  
映司「俺なんて化石です！色が！！（ドヤアッ）」  
エイジ「俺はグリードになる予定はないけどな！（ドヤアッ）」  
エイジ「でも嫌いなものは嫌い！（ドヤアッ）」  
シンジ「どや顔で何を言うとか貴様らア！」

士「ケイスケ…ここまで来てお前が酷かったら、プトティラ泣くらな？」

サゴーズ「いや、むしろ楽しそうにお絵描きしてますが」  
シャウタ「何描いてるんだ？」

プトティラ「えーじ！」

映司「ははは…本当だ、……グリード態の俺だあ…orz」

プトティラ「こっちはエイジ！」

エイジ「はっはっは…そうだな、……グリードの俺だな…orz」

ヒロシ「もうエイジさんも恐竜グリードになれば？」

エイジ「何故に！」

> i 3 5 0 4 2 — 3 2 1 5 <

全「「そくだよそれだよケイスケエエエ！」」

映司「うん、一等賞！君が一等賞！！」

エイジ「何これ、いままでのが酷すぎた（？）分の反動が凄まじい！」

エイジ「出し方って重要だな！」

ソウジ（むしろ、ケイスケ君はプトティラを描けなかったら一番まずいような…）↑実はハイクロついでにDCDRWの展開見てきた

〃  
〃  
〃

士「さて…結果発表の時間だぜ！」

シンジ「じゃあ、まずはヒオウティンコンボ賞…もとい、【まともなプトティラ賞】は！」

ヒオウティンコンボ「…ケイスケ（君）」

ケイスケ「っしやああああ！」

カズマ「ですよねー…！orz」

ヒロシ「俺のプトティラ、自信あつたのに…」

ユリコ「なんでシロウさん以上に無駄な自信に溢れているの？」

ユウスケ「続いて、オーズ兄弟賞は…」

オーズ兄弟「…リョウ（さん）」

シヨウイチ「だよな！絶対そう答えると思った…！」

カズマ「むしろ、そう答えなかったらおかしいよ！」

ラトラーター「いや、俺は花崎の絵もいいと思ったんだけどさあ…」

タジャドル「俺が踏まれているのは論外！」

プトティラ「タジャ××踏まれているのはいいけど、一緒の空間にいるのやだ！リョウのはシャウタだからいいの！！>□<」

タトバ「MEGAMAX的な意味で、タカヘッドブレイブが踏まれているのは個人的に胸が痛かった」

ガタキリバ「…つてのがいるから…」

ブラカワニ「パパンはどっちもいいと思ったんだけどね」  
シャウタ「俺は時雨さん一択でした」

ソウジ「では、プトティラ賞は？」

ヒロシ「俺だよね！」

カズヤ「俺、せめて俺を！残り（花崎さんを除いて）全然プトティラじゃないから！！」

1号「もう諦めましたorz」

弦太郎「俺だよな！？」

シロウ「俺だ」

プトティラ「うーとね、プトはね、うー…omO」

ソウジ「悩んでいるなあ」

士「悩むだろ、ユリコ以外どっこいどっこいだし…弦太郎の酷さは安定だが」

プトティラ「これがいい！O O」

> i 3 5 0 3 9 — 3 2 1 5 <

全「———なんだとオオオオオー！！？」

弦太郎「奇跡キターッッッ！！？」

プトティラ「こっちの方が強そう！O O」

映司「プトティラ…プトティラ、メスだよな。だったら…花崎さんの選はない…？」

エイジ「弦太郎のは…その、……酷い…ぞ？」

エイジス「お前ら必死だな」

プトティラ「プト強くてカッコいいほうがいい…omO」

ショウイチ「カッコいい…だと、」

士（あの絵が？…あの絵が！？）

カズマ（プトティラのセンスが分からないよお母さん）

シンジ（誰が母だ）

ソウジ「それなら、何故シロウ君のは除外したんだ？」

プトティラ「それ、プトじゃなくてエイジだもんOO」

シロウ「なん…だと」

カズヤ「ちなみに、俺のは…」

プトティラ「…てきとうOO」

カズヤ「適當って、言われた…頑張ったのに…適當って…！orz」

ヒロシ「俺は？」

プトティラ「…なんか変OO」

ヒロシ「orz」

1号「一応聞くが、私h」

プトティラ「嫌い！>□<」

1号「…orz」

ユリコ（私は言わないほうがいいや…さっき、除外された理由聞いたし…）

士「では、残りは今回の罰ゲームを受けてもらおう」

春沢「【Lost memory of the RYUKI】の春沢美佳です。宜しくお願いします」

シンジ「ビシバシ決ってあげてね」

春沢「ええ、そのつもりです」

ショウイチ「逃げるぞ、あいつが来た以上、Xやスーパー1以上の恐怖が待っている」

ソウジ「うん」

春沢「まずは月島カズヤさん。——兄のためにと自分の夢を捨て、

自分の体を捨て、血の繋がった家族が兄じゃないとはいえそれを本当に望んでいる人がいると思うんですか。というより、あなたむしろ性格的にスカイライダーの方が合っていますよね、兄弟側の不憫スイカ的な意味で」

カズヤ「ぐふっ！」

春沢「続いて月島ヒロシさん。——事故で死に冷凍保存され、その遺体を敵に利用され…ヒロイン的な立ち居地ですが、あなたの抱える闇はどのくらいあるんですか。話によれば、43話執筆段階で強烈な死亡フラグ&闇堕ちフラグまで立っているじゃないですか何処まで悲劇のヒロインを担当するんですか、どこかのミカンの代わりに」

ヒロシ「あうっ」

夏海「…orz」↑誤爆

春沢「花崎ユリコさん。——あなたに関しては、タックルというだけで死亡フラグが立ち…更には出番も限られているという、まさしく『死に際が華』と言わんばかりの状態じゃないですか。同じ女性として言います、…せめて幸せになってください」

ユリコ「励ましているのか責めているのか分からないけど、最後だけ受け取っておく…！」

春沢「さて風祭シロウさん。あなたに関しても、某ライダーに倒される時が華でしたね。それ以降は基本的に空気と言うか、とりあえず喋っておけばいいや状態でしたよ。スーパー1やスカイライダーはおるかZXですらメイン回があり、ライダーマンですら1話分まともな話をもらえ、アマゾン・2号は2話に掛けて強くプッシュ、1号は43話時点で存在していないので論外、Xは立ち位置的に優遇気味…あなたも死に際が華ですかそうですか」

シロウ「…orz」

1号「…orz」↑誤爆

春沢「それから門矢士さん、あなたの場合（以下ネタバレのため情報規制）」

士「↑再起不能

ユウスケ「Σ土ーッ!？」

シヨウイチ「誰か、救急車を…救急車ー!」

シャウタ「タトバ、医者志望なら頑張れ」

タトバ「うん、ごめんシャウタ。——俺の目から見ても無理だ、これ!」

エイジス「ブラカワニをするまでもない…むしろ、葬儀の準備だ」  
映司「それ程重症!？」

## Ride010：キターツ！絵心大戦2012その4（後書き）

〈次回予告〉

龍騎「さて、【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】続いての遠吠えは…」  
タジャドル「遠吠えってなんだよ!？」

ストロンガー「…DCDRWのチャージアップが実装されていないことが不満なんだ！スカイライダー先生は強化形態なのに…!!」  
V3「それを言ったら、X先生なんて30話以降でやっとマーキュリー回路の存在が…」  
ストロンガー「俺なんて存在が微塵もないんですよ!?!…チャージアップ、チャージアップどうしたアアア!」

ケイスケ「技術者として言わせて貰う」

シゲル「…」

ケイスケ「——俺には無理!」

シゲル「そんなああああ…!orz」

Ride011：チャージアップ！仮面ライダーの主張その3

## Ride011：チャージアップ！仮面ライダーの主張その3

龍騎『さて、【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】続いての遠吠えは…』

タジャドル「遠吠えてなんだよ!？」

龍騎『だって、そうじゃないですかー結局叫ぶんですしー』

ガタキリバ「そりゃあ、主張だし！叫んでナンボだし!！」

龍騎『さ、早くしましょうか』

ストロンガー「何こいつ、やりづらい!」

全「「龍騎だし…」「」」

ストロンガー「えー、俺は」

龍騎『アレは?』

ストロンガー「アレ?」

龍騎『ストロンガーと言えば、あのクソ長い口上じゃないですかー』

ストロンガー「…言うの?リイマジやってないのに俺やるの!？」

1号「当たり前だ!」

2号「そうだそうだ!」

V3「あのクソ長い口上やってこそそのストロンガーだろう!」

ストロンガー「えええ…!？」

ストロンガー「……天が呼ぶ地が呼ぶ人が呼ぶ、悪を倒せと俺を呼

ぶ！俺の名は、仮面ライダー…ストロンガー！！」

龍騎『はい次の人』

全「「おつまあああ！」」

龍騎『ジヨークです』

ストロンガー「ビビるわ！」

ストロンガー「気を取り直して…リイマジの俺の脱走劇、良かった  
ですよ！」

V3「ああ、凄かったぞ…リイマジXの戦い！」

スーパー1「圧倒的だったな！」

響鬼「いやいや、なんと言っても、三人目のオーズの戦いでしょ」

ガタキリバ「あのブラカワニマジうちの親父」

ラトラーター「親父がダブって見えたぞ」

龍騎『ですよー』

X「あんたらストロンガーの話聞こうか」

ストロンガー「負けない、味方がX先生だけでも負けない…！or  
z」

タトバ「が、頑張って」

シャウタ「そのぐらいでへこたれてると、兄弟側での出番回ってこ  
ないぞ」

ストロンガー「その言い分こそ泣くぞ！？…本日俺が主張したいの  
は、そう！」

V3「LRがないこと？」↑02弾でLR化

ストロンガー「ああ、それも言いたいよ！ガタキリバと徒党を組ん  
で、訴えたいさ！…でもそこじゃない、ガンバライド知らない人の  
ためにもそこだけは違うと言い切る！！」

ブラカワニ「ちなみに作者は200円でゾルダLR手に入ってたって

言っただけ、プレイした台がそれぞれ違うから…厳密に言うと、100円で引いたという」

ライダーマン「ガンバライドの話は切りましょう、V3先生を絞めたくなってくるから!」

ストロンガー「平成の仮面ライダーといえば、アイテムやら何やらで強化される…だが俺は!その先駆けとも言える…強化体持ちの昭和ライダーだ!」

ダキバ「それが一体…?」

ストロンガー「…DCDRWのチャージアップが実装されていないことが不満なんだ!スカイライダー先生は強化形態なのに…!」

V3「それを言ったら、X先生なんて30話以降でやっとマーキュリー回路の存在が…」

ストロンガー「俺なんて存在が微塵もないんですよ!?...チャージアップ、チャージアップどうしたアアア!」

V3「お前な…44話執筆段階で、必殺技を決められたライダーがどのぐらいいると思う?スーパー1先生ですら、梅花二段蹴りが出たのが27話!」

スーパー1「それまでは、赤心少林拳の技か…ファイブハンドによる援護のみ!」

スカイライダー「操られている時のノーカウントにしても、強化形態なのにスカイキック以外の技が出たのは…37話!」

ZX「俺なんて…加入時期で考えたら仕方ないけど、22話でZXキック…」

2号「いや、それ早いほう!加入時期で考えたら早いほうだ、俺なんて未だにライダーキックすら…!」

V3「ちなみに俺、逆ダブルタイフーンは16話初出」

アマゾン「大切断、40話」

X（私は……黙っておこう）↑40話で真空地獄車

ストロンガー「それでも…それでも、チャージアップ欲しいんだよオオオ！」

V3「俺の扱いを知つての発言かアアアア！」

スーパー1「正直X出番寄せと叫びたいんだぞこっちはアアア！」

X「——そういうあんたが先に存在していただろうがアアアア！」  
スカイライダー「このミスリード要因がアアア！」

龍騎『煩いのでプトティラ歌っちゃってください』

リュウガ「何だよその適当ぶりは！」

プトティラ「【プトプトげんきだもん！】2番歌うよー」

昭和軍団「「ぎゃーすぎゃーすぎゃーす！」」「」

プトティラ「…om o」

シャウタ「あの、先生達+ストロンガー、プトティラ泣きそうなん  
で…」

V3「あ、すまんプト介」

プトティラ「プト介じゃないもんom o」

X「とりあえず、歌い終わるまでは静かにしていきましょう…」

ライダーマン「ですね…」

プトティラ『サゴーズのバナナパイ 食べたラトラーター殴られて  
いたよ』

プトティラ『タジャ××とタトバはね 昼ごはんの唐揚げに何故か  
泣いてた』

プトティラ『パパンはソファの上で　ゴロ寝して怒られた』』

プトティラ『ガタキリバはスーパーの大安売りに　泣きながら行ったよ』』

プトティラ『プトはまだむつかしい　大人のじじょうは知らないけど』』

プトティラ『青い海見ていたら　シャウタのご飯食べたくなったよ』』

~~~~~

エイジ「——プットツティラーノ！」

ヒナ「またお兄ちゃん発狂した！」

士「え、昭和ってストロングーぐらいしかないのか？強化形態持ち」

クウガ「まあ、途中からスカイライダーの色が変わったなとは思っていたけど……」

ヒロシ「でも色だけだしね？」

1号「私なんて、桜島1号と呼ばれるマスクの色があるからな」

ハヤト「ちなみに、DCDRWにおける2号のマスクの色は旧式（MOVIE大戦MEGAMAX版）です」

シゲル「いや、もう、本当に…チャージアップぐらい実装してくれよ…」

シロウ「その前にお前が脱走したんじゃないのか？」

シゲル「かもしれないけどさあ…！」

カズヤ「でも、パワーバランスがストロンガーに偏るのもアレですよ…」

シゲル「いや…待て、20話までのネタバレにならない範囲で言うが、バランスブレイカーはXだからなX」

リョウ「エイジスのオーズは？」

ケイスケ「さ、さあ…」

エイジス「でも、Xたびたび出てくるぐらいだからな…いつそ、『神』で」

シンジ「それは最強すぎるバランスブレイカーだぞ」

存在自体がバランスブレイカーなのはエイジスブラカワニ（死なないという意味で）

シゲル「でもやっぱり強化形態欲しいいいい！」

士「何言ってるんだ。楽して最初から強化形態を手に入れたら、つまらないだろうが！」

カズマ「チーズ、」

シヨウイチ「士」

ソウジ「士…」

シンジ「士！」

ユウスケ「…士」

一家＋ユウスケ「「お前はそれを言ったらいけないような…」」  
士「黙っとけ！」

ちなみに、現在の最強フォーム状況

クウガ…ライアル覚醒済み

アギト…シャイニング可能

龍騎…サバイブがシス持ち、ただし返す際に遊び半分で仕込む可能性が濃厚

ファイズ…ファイズブラスターがシス持ち

ブレイド…コア大戦の初期から可能だった

響鬼…装甲声刃がシス持ち

カブト…コア大戦ラストでゼクちゃん（＝ハイパーゼクター）がソウジについていった

電王…知らない、ピットだったらケータロス返却済み

キバ…タツロットとザンバットソードがシス持ち

シロウ「いずれにしても、改造人間だけに…再改造するしかないぞ」  
シゲル「だよなあ…！ケイスケえ……！！」

ケイスケ「技術者として言わせて貰う」

シゲル「…」

ケイスケ「——俺には無理！」

シゲル「そんなああああ…！orz」

カズヤ「当たり前だよ…」

ケイスケ「そういう専門の人じゃないと、無理だって。メンテナン

スは出来ないことはないけど、改造人間を作るのは専門外」

シゲル「電子レンジを直す要領で出来ないのか…？」

ケイスケ「お前バラバラにして電子レンジに突っ込むぞ」

ハヤト「その手の専門と言えば、ライダーマンしかないんじゃない」

シロウ「……………ス・コムセをつれてきた方がいいんじゃないか？」↑心底嫌そうな顔

ハヤト「いや、シゲルだけじゃなくて俺達の貞操の危機だからな？それ呼ぶってことは」

リョウ「それ以前に、何故そんなに嫌そうな顔を…」

ヒロシ「はいはい！ライ街の弟切さんか、オーズ兄弟のスーパー1先生を連れてきて…」

ケイスケ「魔改造かよ！」

シンジ「正直、それは認められない！」

ショウイチ「例えば法が認めても、俺は認めないぞ！？」

カズマ「失敗はしないだろうけど、余計な機能追加されるよ？」

ソウジ「…それは…ショッカー戦闘員を実験台にした後で考えよう。本当に、彼らでいいのかどうか」

ユウスケ「シスは…性格アレだけど、暴走の危険があったりするものは絶対にしないから…」

士「それで考えると、——シスに『改造人間を作れ』…と言ったら、ゴッドショッカーは一人残らず殺されるんじゃないのか？」

シンジ「…あいつ、一応、安全の保障が利く人体実験ならするけど…危険と分かっているものはしないから、なあ」

カズマ「笑顔でぶちきれて世界の終焉だね」

ユウスケ「正直、終末サゴーズとタッグを組めば潰せると思うんだ

… たったの1話で」

ソウジ「では、ライ街の弟切やオーズ兄弟のスーパー1先生は？」

全「… あー…」

ワタル「どうでしょうか、… ライ街の弟切さんは… いなくなったら壁やオーロラをぶち抜いてでも探しに来るアホ（キラメキ）がいますから」

士「スーパー1は… いない方があの世界平和なんじゃないか？」

ショウイチ「… Xは教育指導スイッチが入らない限りは、温和だからな」

ケイスケ「それ、温和とは言えないような」

アスム「むしろ… スーパー1先生は、ライダー戦力としての頭数になるんじゃない？」

全「… ああー…」

士「待てよ、じゃあ、鳴滝は」

カズマ「別にナルタコスなんていてもいなくてもどっちでもいいんじゃない」

シンジ「いるだけ酸素の無駄遣いだしな」

ショウイチ「敵でも味方でもウザイのは、お前が一番分かっているだろうが」

士「—— だな！」

ソウジ「ここまで来ると、哀れだな」

ユウスケ「待てよ、… スーパー1もといS-1を作った… 仁敬一郎さんならきつと！」

シゲル「おおっ!？」

ケイスケ「——そうさ、親父がいれば…ストロングァーにチャージアップも実装できたろうし、皆のメンテナンスも充分に行き渡っていた…俺なんて俺なんて俺なんて俺なんて俺なんてorz」  
↑自己嫌悪モード

ハヤシロ「あーあー」

ヒロカズ「触れたらいけない傷を…」

シゲル「俺じゃない、ユウスケ！ユウスケ！！」

ユウスケ「正直ごめんなさい！」

士「やはり、候補としては」

1・シスを呼ぶ

2・ドSを呼ぶ

3・弟切を呼ぶ

4・敬一郎博士をどうにかする

5・ケイスケにやらせる

6・むしろオリジ1号2号呼べ

7・リイマジでもオリジでもいいからライダーマン呼べ

8・ゴッドシヨッカーに再び捕まる

9・サンダースによる裁きの鉄槌で強化

シヨウイチ「——最後ユウスケエエエー！！！」

ソウジ「個人的には、7が濃厚だな」

シロウ「俺は全力で8を推奨する」

シゲル「また捕まれてかよ！嫌だよそんなの！！」

ケイスケ「そうさ俺の技術力なんて親父には到達できないんだ親父に追いつくなんて無理な話さ…orz」  
ヒロシ「どうどう」

カズヤ「励まし方として違う!…どんまい」

ハヤト「その励まし方も、追い詰めるだけじゃね?」

士「むしろ」

全「…?」「」

士「——ソウジお前サンダース呼んで来いよ、そしたらきつと【神】にすら勝てる…堕天使すら圧倒したアレならきつと勝てる」

ソウジ「悪いが…『サンダースはチートすぎるので無理』と、作者がな」

士「畜生あのドMめが!」

Ride011：チャージアップ！仮面ライダーの主張その3（後書き）

〈次回予告〉

士「ネタバレ上等！ライダー適合！！」

ユウスケ「今回は、リイマジ昭和メンバーを徴集して行きます！」

海東「尚、例によって1号は1号に変身状態だよ」

1号「泣いていいでしょうか」

カズヤ「俺、今からでも一時的に死んでファイズの適合条件を満たすべきでしょうか…！」

タクミ「お願いだからやめて。リンクも止めるような自己犠牲はやめて」

アスム「と言いますか、今更どうやって死ぬと言っんですかスーパー1」

ワタル「——オーズ一家の世界のスーパー1先生なんかは、何に分類されるんでしょうか…！」

ユウスケ「あつ、え、………そういえば…」

シンジ「異端…なのか、な」

ショウイチ「人外…なのか？」

R i d e 0 1 2 : ネタバレ上等! ライダー 適合

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1264y/>

---

仮面ライダーDCDRW スピンオフ大戦！

2011年11月20日00時41分発行